

茨木市次世代育成支援に関するニーズ調査

結果報告書（案）

（中高生）

平成31年（2019年）3月

茨木市

目 次

I. 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 回収結果	1
4 調査結果の見方	1
II. 調査結果	2
1 本人や家族に関することなどについて	2
2 一緒に暮らしている人の手伝いや世話について	13
3 一緒に暮らしている人や自身に対する考え方や見方について	21
4 学校での過ごし方について	24
5 ふだんの過ごし方などについて	27
6 学校以外の公共施設について	39
7 悩みや相談先について	45
8 地域に役に立てる支援について	48
III. 調査結果からみえてきた今後の課題	49

I. 調査概要

1 調査目的

現行の「茨木市次世代育成支援行動計画」が2019年度末で終了することから、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を含めた、次世代育成支援施策の新たな計画として「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」を策定することとしている。本調査は、新たな計画策定にあたって、本市の中学校及び高等学校に通学する生徒の学校生活や友人関係、家庭生活等の状況や意見・要望などを把握することを目的に実施した。

2 調査設計

- (1) 調査地域 茨木市全域
- (2) 調査対象
 - ・茨木市立中学校（4校）並びに大阪府立高等学校（6校・全日制）、特別支援学校（1校）に通学する生徒
 - ・中学校は2年生、高等学校・特別支援学校は1年生もしくは2年生を対象に実施
- (3) 対象者数 中学校は各校から2～5クラスを抽出し計475人を、高等学校・特別支援学校は各校から2クラスを抽出もしくは全クラスを対象に計809人を対象に実施
- (4) 調査方法 学校での自記入方式
- (6) 調査期間 平成30年12月13日（木）～平成31年1月11日（金）

3 回収結果

区分	配付数	回収数	回収率
中学生	475	359	75.6%
高校生	809	472	58.3%
計	1,284	1,153	89.8%

* 高校生の配付数及び回収数に特別支援学校の生徒分を含む。

* 回収数の計に在籍校不明分（322人）を含む。（在籍校不明は問2が無回答のもの）

4 調査結果の見方

- (1) 図中の「n」は、設問に対する回答者数のことを示す。
- (2) 回答比率（%）は回答者数（n）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。小数点以下の端数処理の関係で、内訳の合計が計に一致しないことがある。
- (3) 複数回答（すべてに○、3つまでに○等）を依頼した質問は、回答比率（%）の計は100.0%を超える。
- (4) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。
- (5) 「高校」に「特別支援学校」の回答を含む。

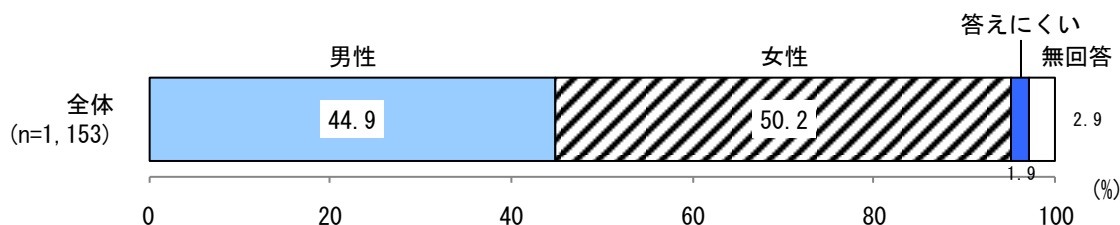
II. 調査結果

1 本人や家族に関することなどについて

(1) 性別

問1 あなたが思う自分の性別をお答えください。(○は1つ)

回答者の性別は、「男性」44.9%、「女性」50.2%となっている。



(2) 在籍校と学年

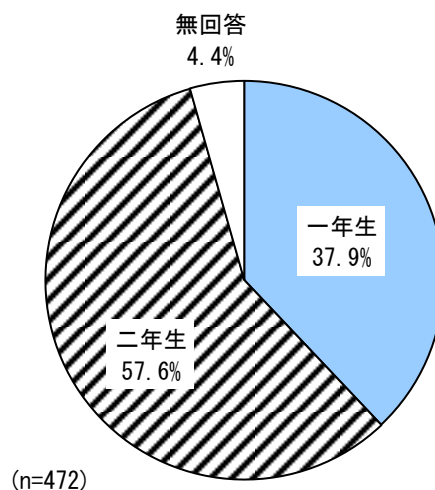
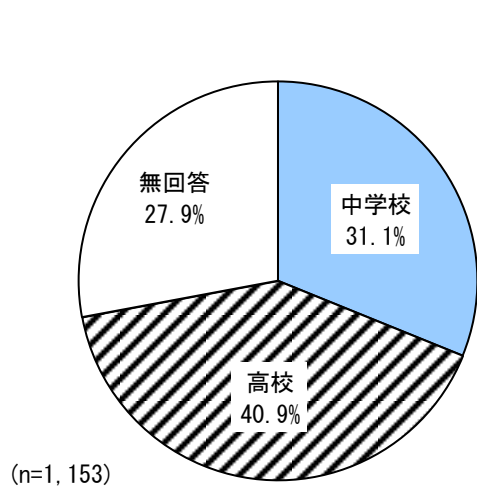
問2 あなたはいずれに在学していますか。(○は1つ)

在籍校は、「中学校」が31.1%、「高校」が40.9%となっている。

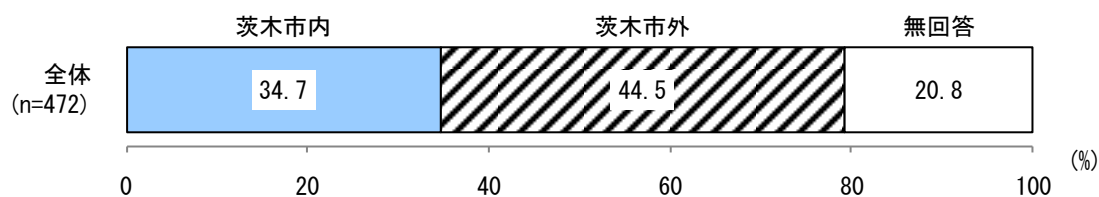
高校生・特別支援学校在籍者の学年は、「一年生」が37.9%、「二年生」が57.6%で、通学者は「茨木市内」が34.7%に対し、「茨木市外」は44.5%となっている。

□在籍校

□学年（高校生・特別支援学校の生徒）



□市内居住の有無（高校生・特別支援学校の生徒）



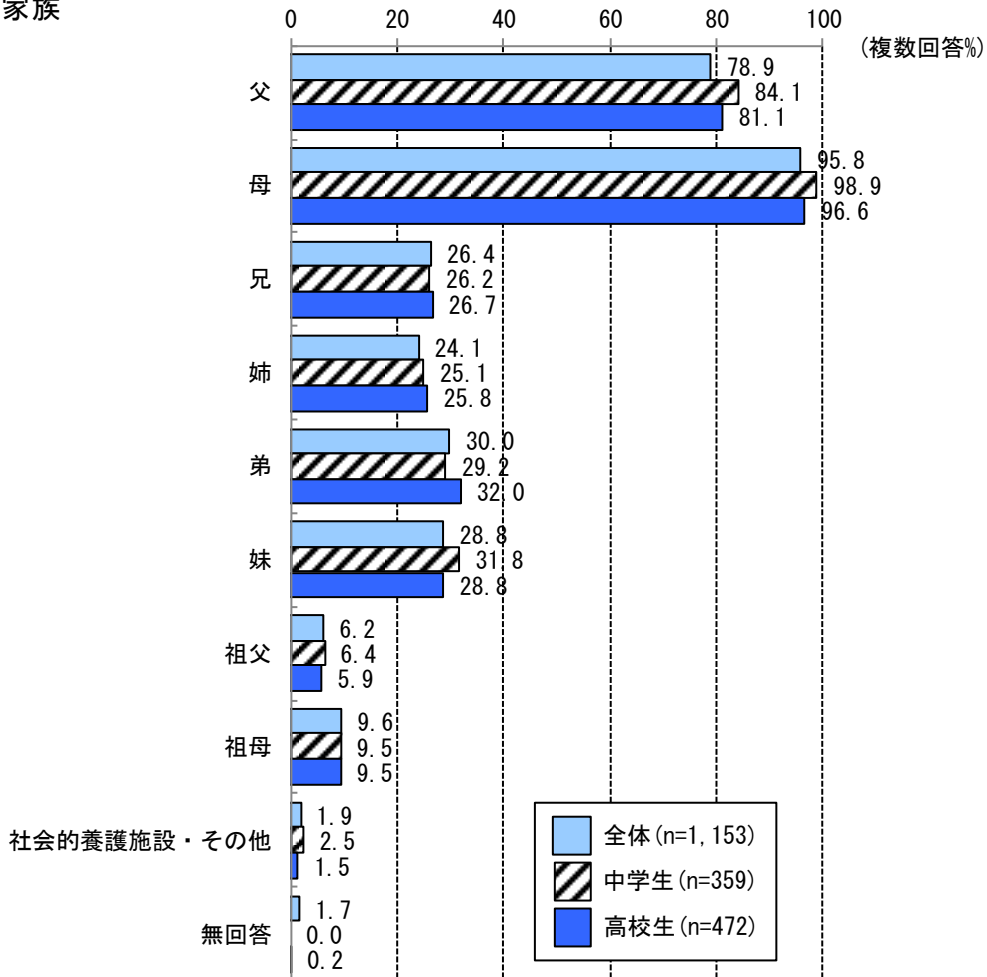
(3) 同居家族

問3 現在あなたと一緒に暮らしている人すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

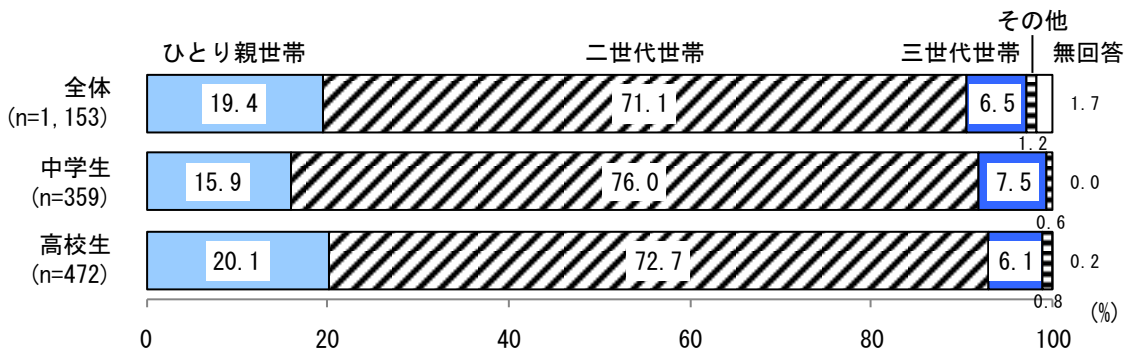
家族構成は、「二世帯世帯」が71.1%で最も多く、次いで「ひとり親世帯」が19.4%、「三世帯世帯」が6.5%となっている。

在籍校別でみると、「ひとり親世帯」は中学校（15.9%）に比べ高校（20.1%）のほうが4.2ポイント高くなっている。

□同居家族



□家族構成



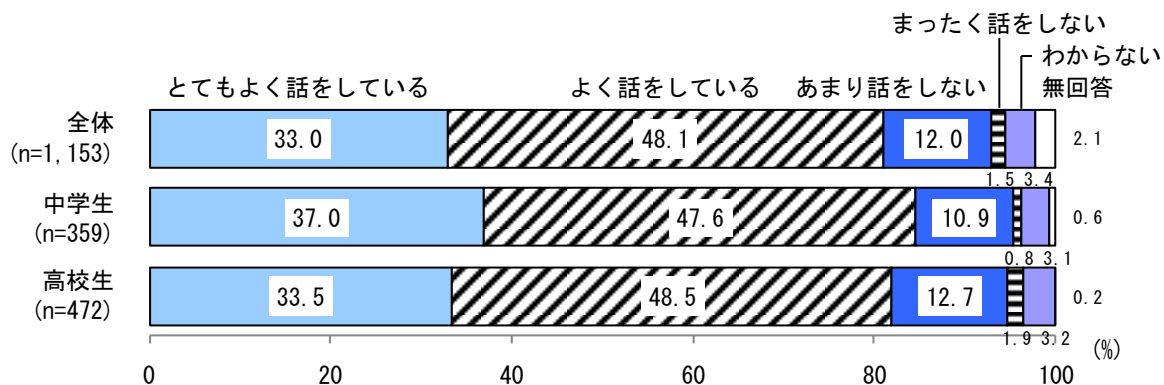
(4) 家族との会話の状況

問4 あなたと一緒に暮らしている人とのふだんの会話の状況について、あてはまる番号(ばんごう)に○をつけてください。(○は1つ)

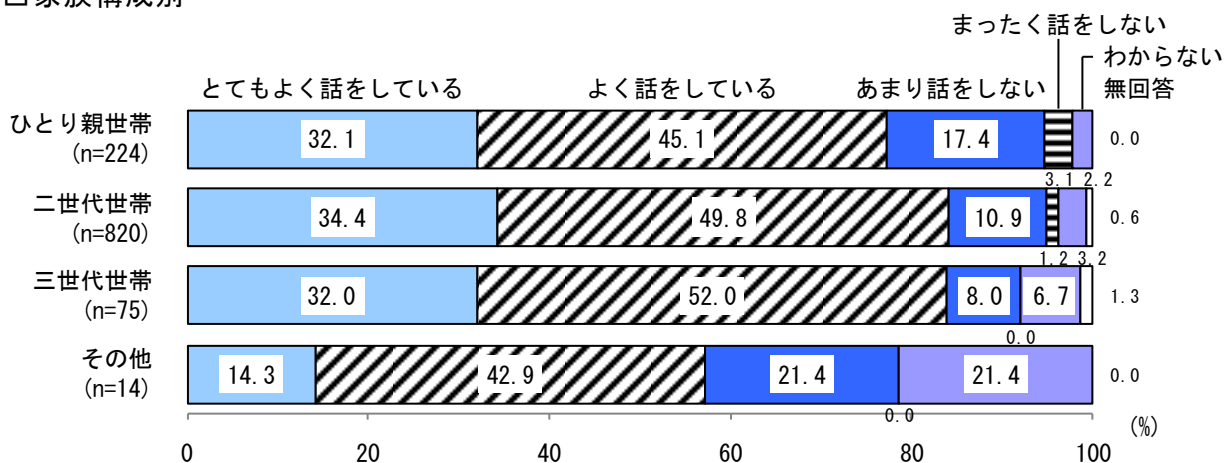
ふだんの家族との会話の状況については、「よく話をしている」が48.1%で最も多く、次いで「とてもよく話をしている」が33.0%、「あまり話をしない」が12.0%となっている。

在籍校別でみると、「とてもよく話をしている」は中学生(37.0%)に比べ高校生(33.5%)のほうが3.5ポイント低くなっている。

家族構成別では、ひとり親世帯の「よく話をしている」の割合が二世帯・三世帯世帯に比べ低く、「あまり話をしない」の割合が高くなっている。



□ 家族構成別



(5) 今の生活の充実感

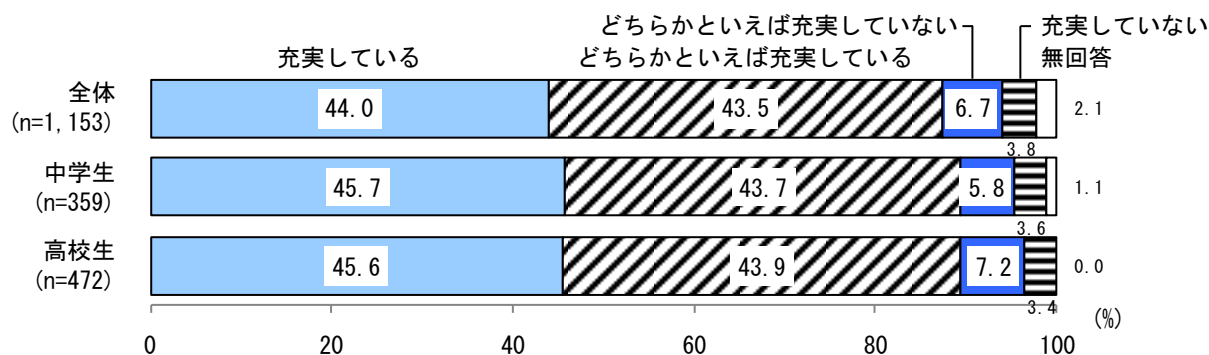
問5 あなたは、今の生活が充実していると思いますか。(〇は1つ)

今の生活の充実感については、「充実している」が44.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば充実している」が43.5%となっており、9割近くが充実していると回答している。

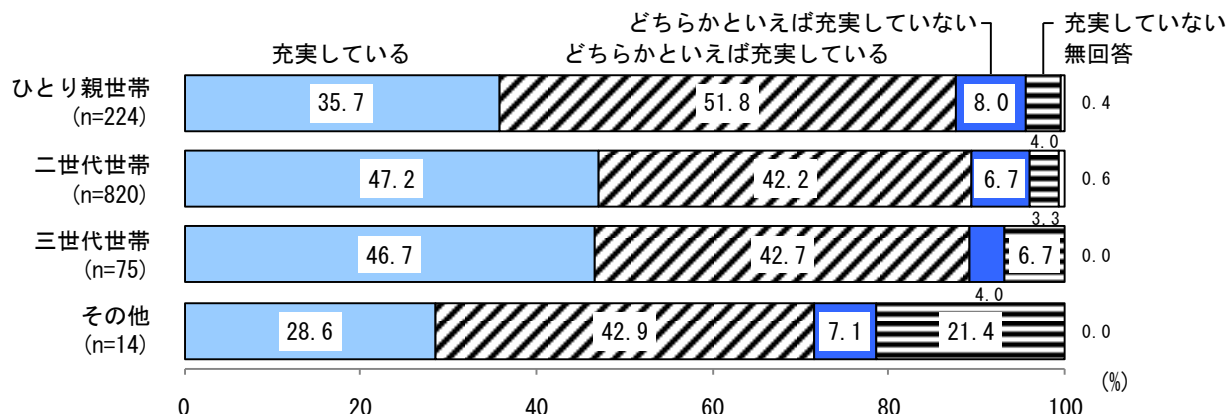
中学生・高校生とも充実しているとの回答が9割近くで、大きな差はみられない。

家族構成別では、ひとり親世帯の「充実している」の割合は、二世帯・三世帯世帯に比べ低く、「どちらかといえば充実している」の割合が高くなっている。

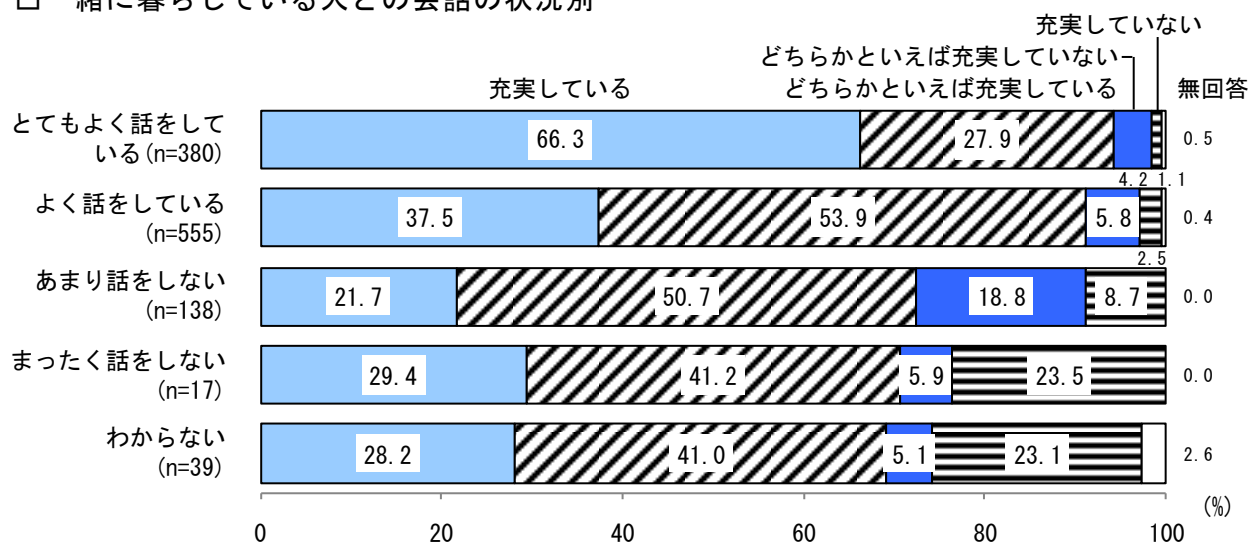
また、一緒に暮らしている人との会話が多いほど、生活に対する充実度も高い。



□ 家族構成別



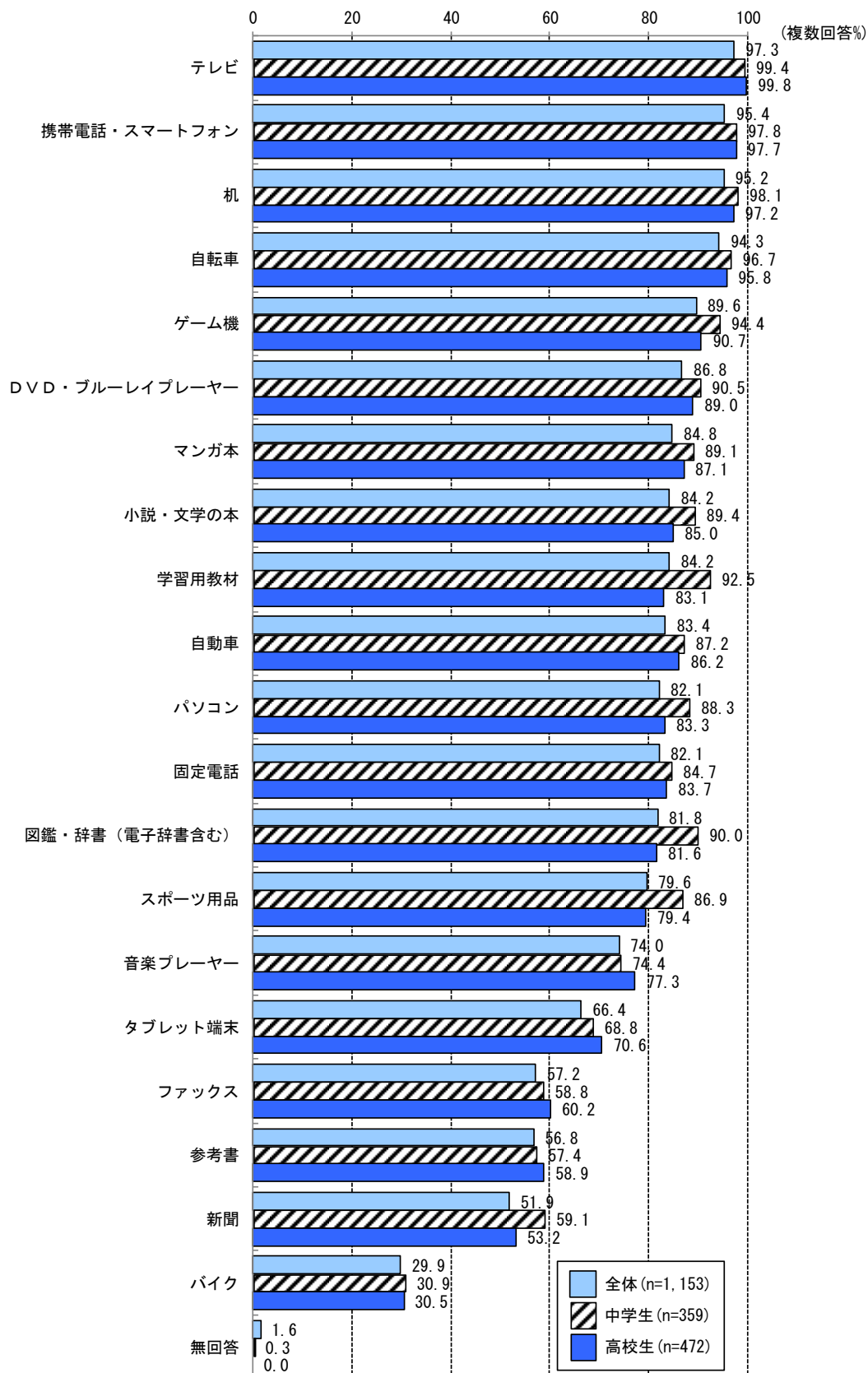
□ 一緒に暮らしている人との会話の状況別



(6) 住まいでの所有物

問6 あなたが住んでいるところにあるものをお答えください。(〇はいくつでも)

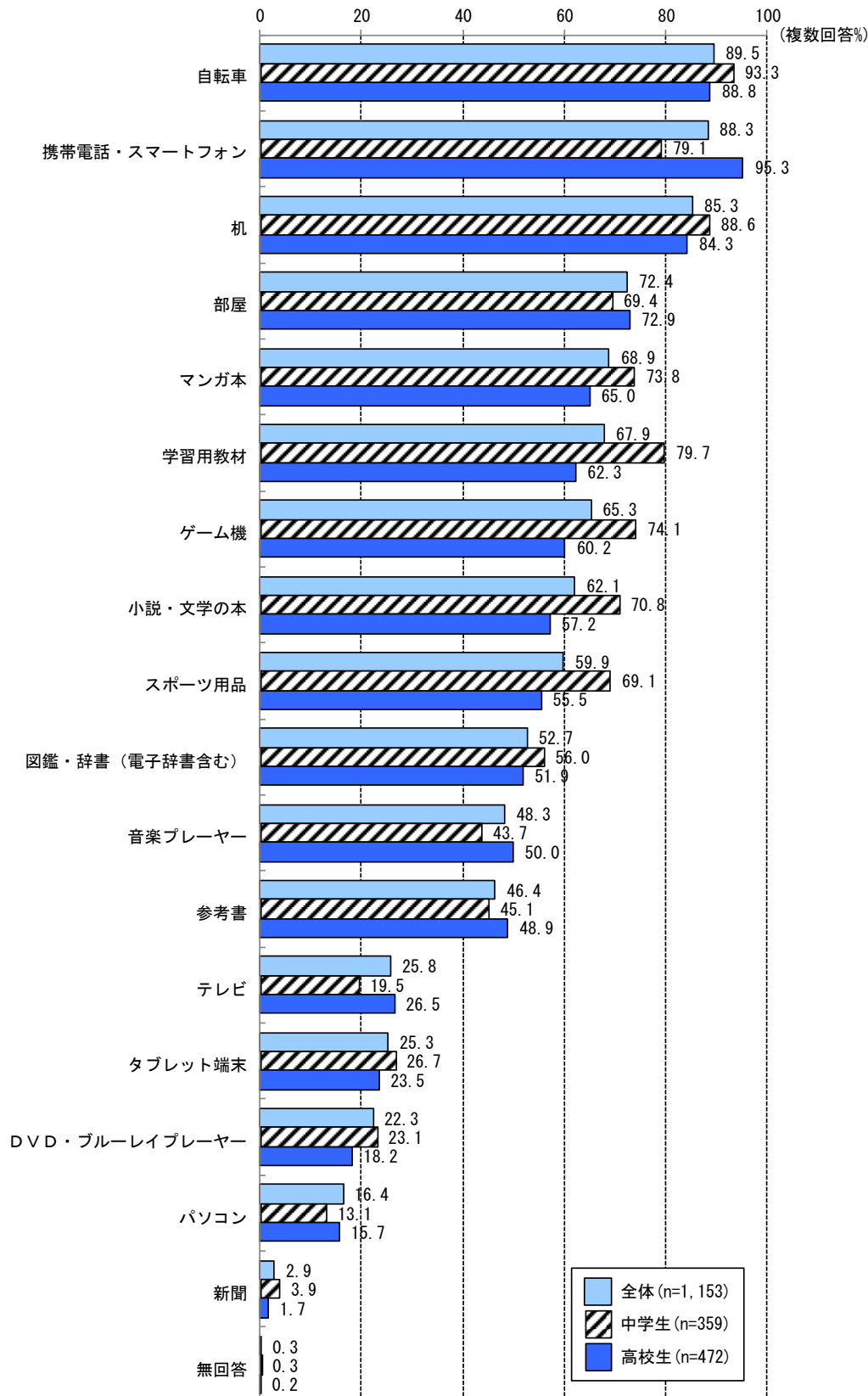
回答者の住まいにあるもののうち「携帯電話・スマートフォン」は中高生に関係なく、98%が所有している。「学習用教材」や「パソコン」「図鑑・辞書(電子辞書含む)」「スポーツ用品」「新聞」がある割合は、高校生に比べ中学生のほうが高い。一方、「音楽プレイヤー」や「タブレット端末」は中学生に比べ高校生の割合が高くなっている。



(7) 自分自身専用の所有物

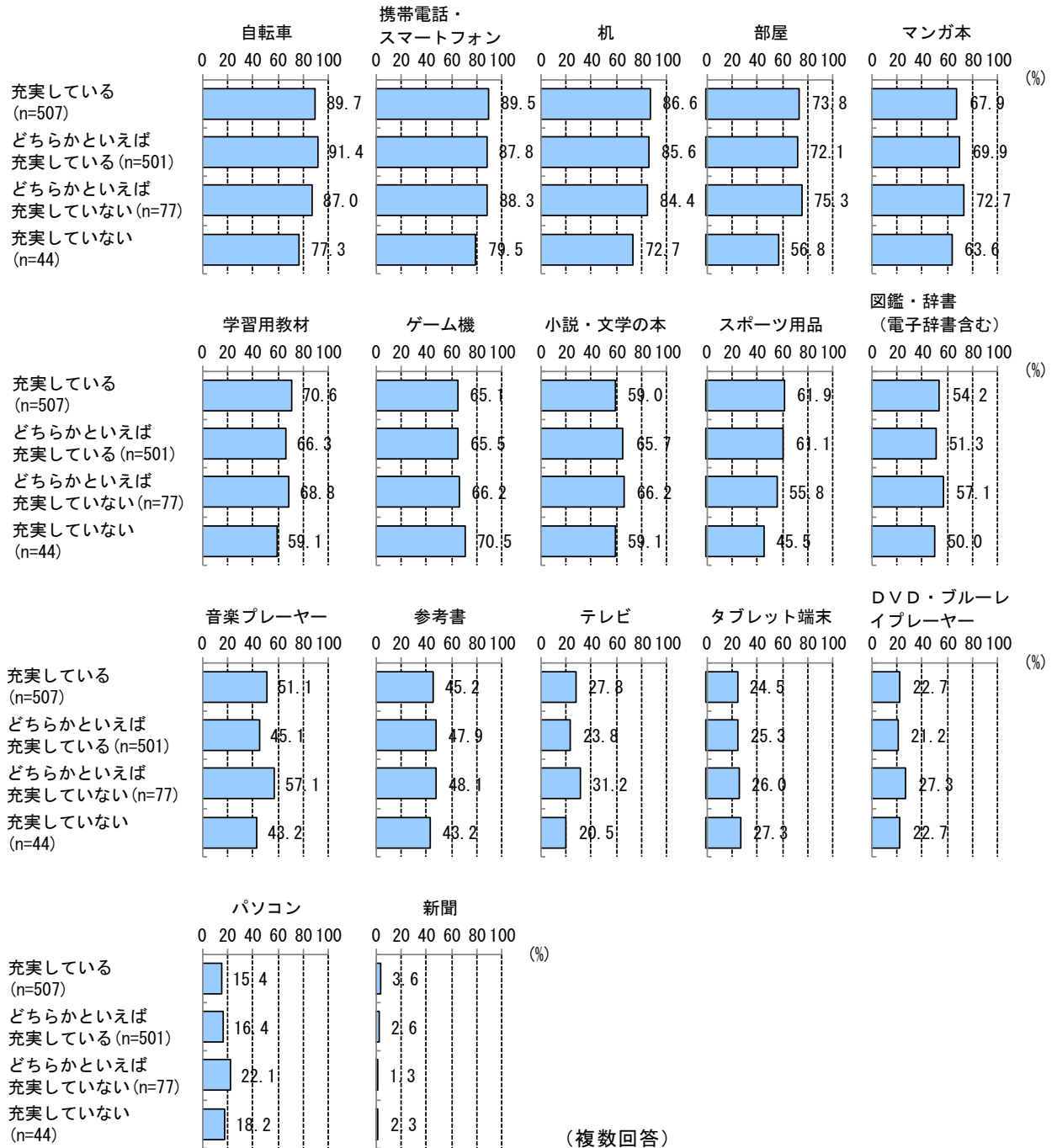
問7 あなた自身が専用で所有（使用）しているものをお答えください。
 (〇はいくつでも)

中学生・高校生が自分専用で所有しているもので多いのは、「自転車」(中学生93.3%、高校生88.8%)である。これに次いで「携帯電話・スマートフォン」(中学生79.1%、高校生95.3%)で、高校生の所有率が高い。中学生では「学習用教材」や「ゲーム機」「小説・文学の本」「スポーツ用品」などの所有率が高校生に比べ10ポイント以上高くなっている。



現在の生活が充実していないと回答した中高生で、「自転車」や「携帯電話・スマートフォン」「机」「部屋」「マンガ本」「学習用教材」「スポーツ用品」「図鑑・辞書（電子辞書含む）」などの割合が最も低くなっている。しかし「ゲーム機」の割合は70.5%で最も高い。

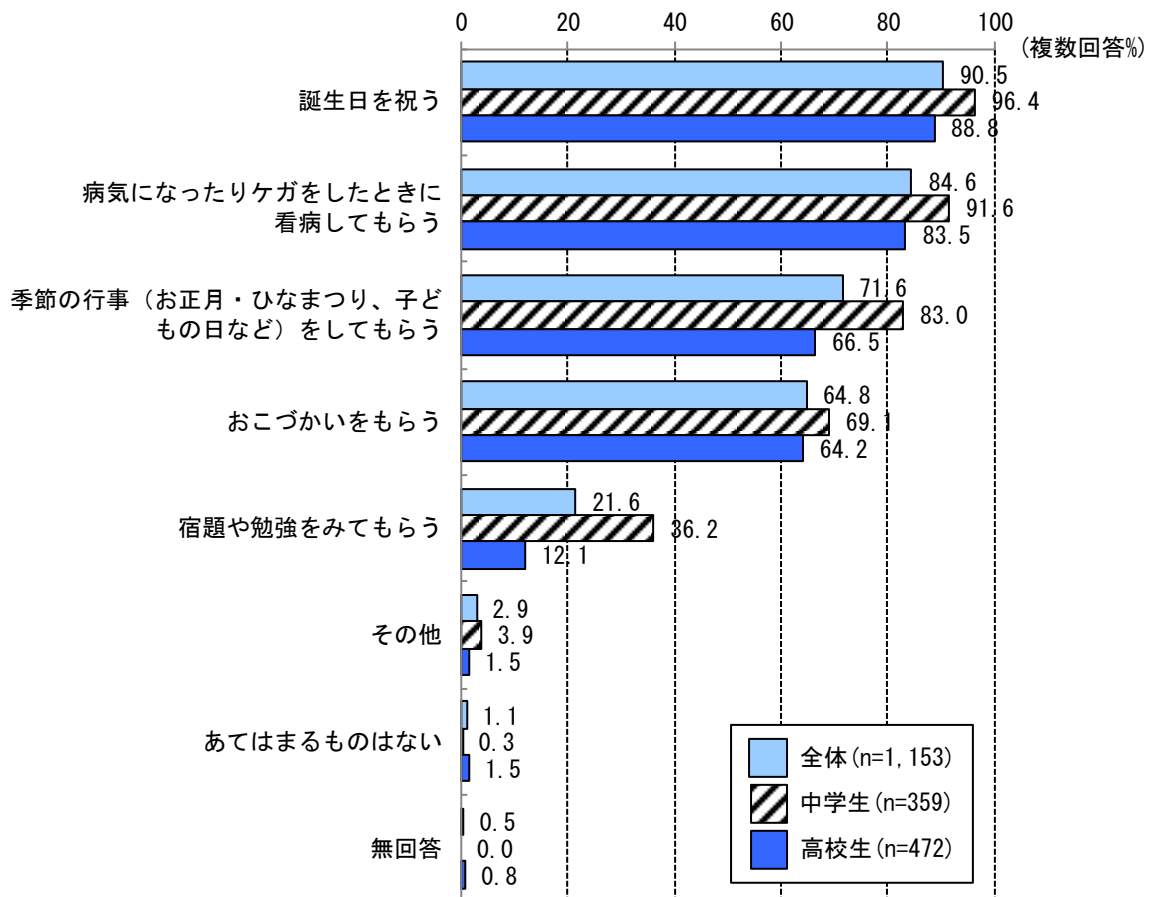
□生活の充実感別



(5) 一緒に暮らしている人からしてもらっていること

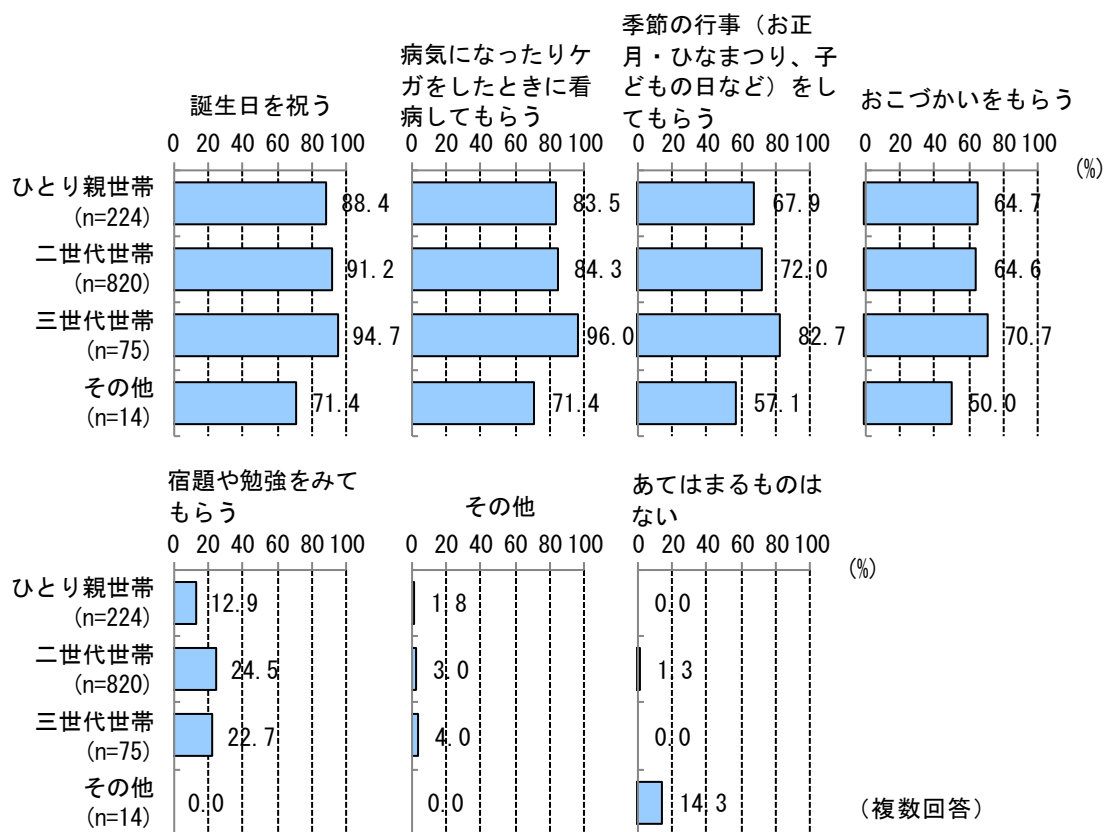
問8 あなたと一緒に暮らしている人に、してもらっていることをお答えください。
(〇はいくつでも)

中学生、高校生とも「誕生日を祝う」(中学生96.4%、高校生88.8%)が最も多い。これに次いで「病気になったりケガをしたときに看病してもらう」(中学生91.6%、高校生83.5%)、「季節の行事(お正月・ひなまつり、子どもの日など)をしてもらう」(中学生83.0%、高校生66.5%)が続く。いずれの項目も高校生に比べ中学生の割合のほうが高くなっている。



家族構成別では、「誕生日を祝う」「季節の行事（お正月・ひなまつり、子どもの日など）をしてもらう」「宿題や勉強をみてもらう」の各割合が、ひとり親家庭で低い。

□家族構成別

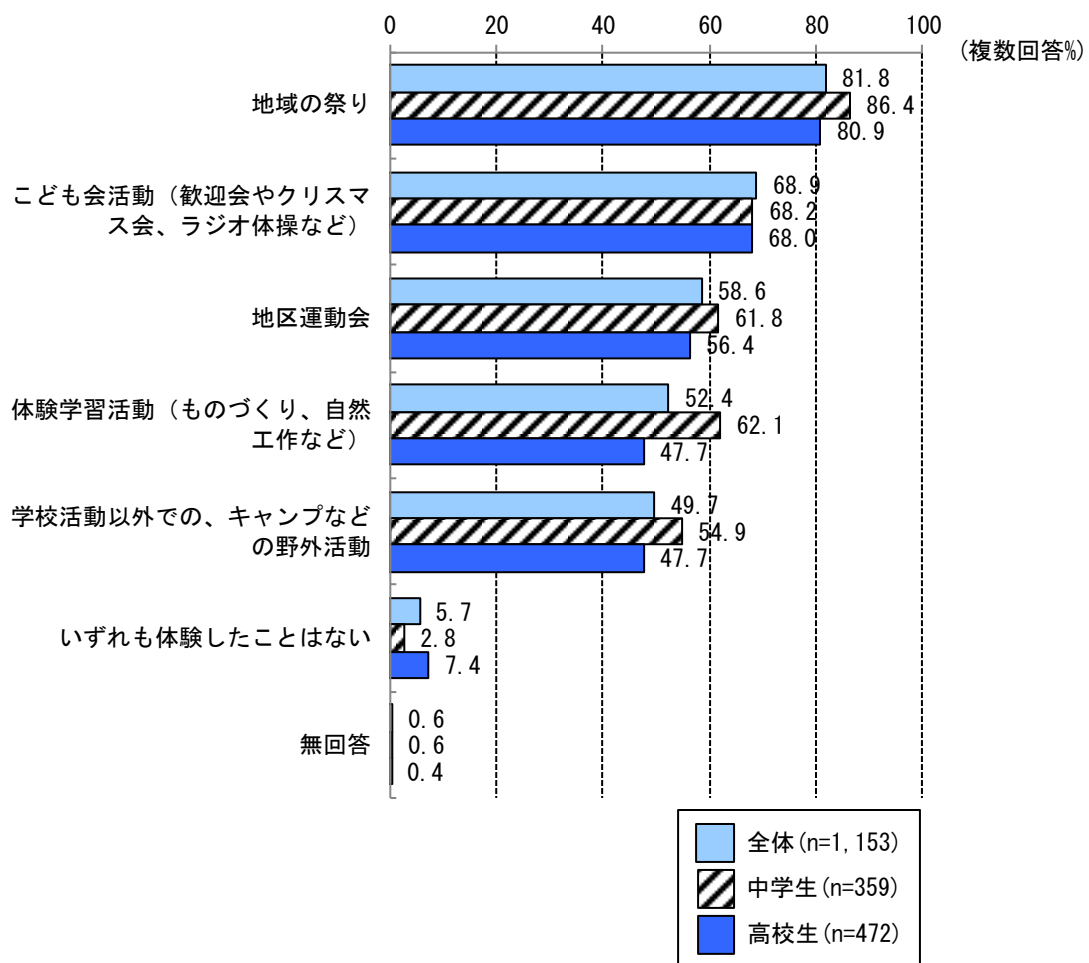


(6) 地域活動や体験活動等への参加経験

問9 あなたは、今までに次のような体験をしたことがありますか。(〇はいくつでも)

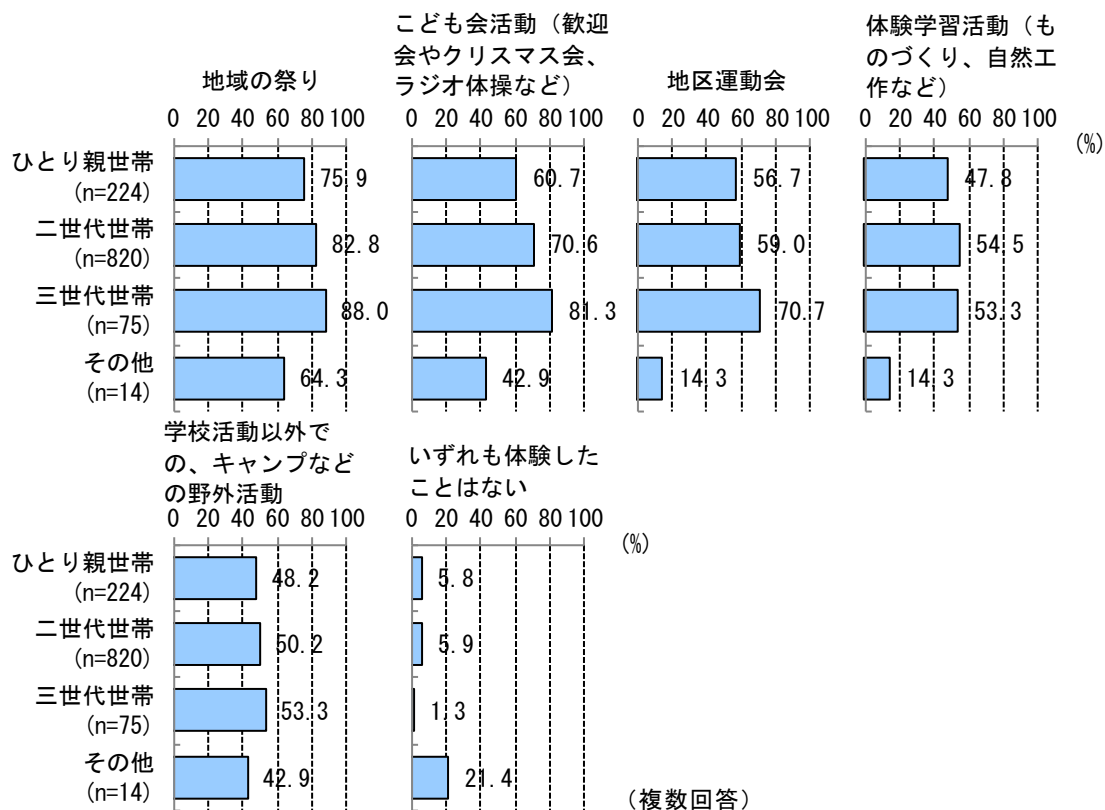
中学生、高校生とも「地域の祭り」(中学生86.4%、高校生80.9%)が最も多い。これに次いで「こども会活動(歓迎会やクリスマス会、ラジオ体操、スポーツ大会、廃品回収など)」(中学生68.2%、高校生68.0%)、「地区運動会」(中学生61.8%、高校生56.4%)が続く。

どの活動も概ね中学生の割合が高校生を上回っており、特に「体験学習活動(ものづくり、自然工作など)」(中学生62.1%、高校生47.7%)は、高校生に比べ中学生のほうが14.4ポイント高くなっている。



家族構成別では、地域活動への参加割合は、全般にひとり親家庭で低くなっている。

□家族構成別

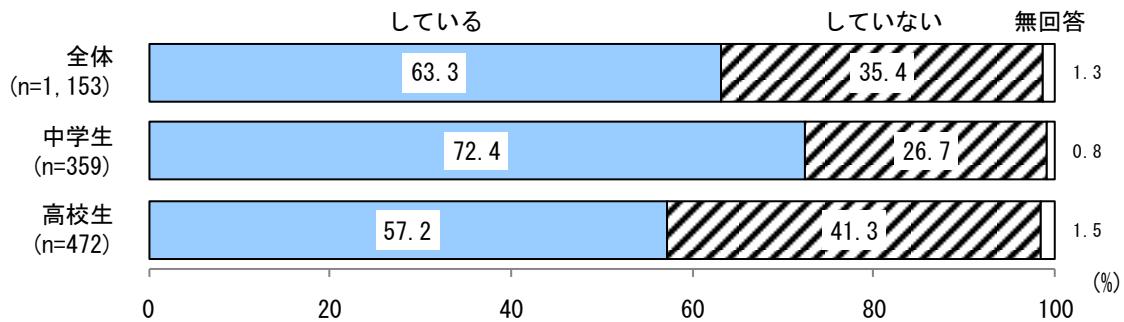


2 一緒に暮らしている人の手伝いや世話について

(1) 一緒に暮らしている人の手伝いや世話の有無

問10 あなたは、現在、一緒に暮らしている人のお手伝いやお世話をしていますか。

一緒に暮らしている人の手伝いや世話について、「している」割合は中学生が72.4%、高校生が57.2%で、中学生のほうが15.2ポイント高い。



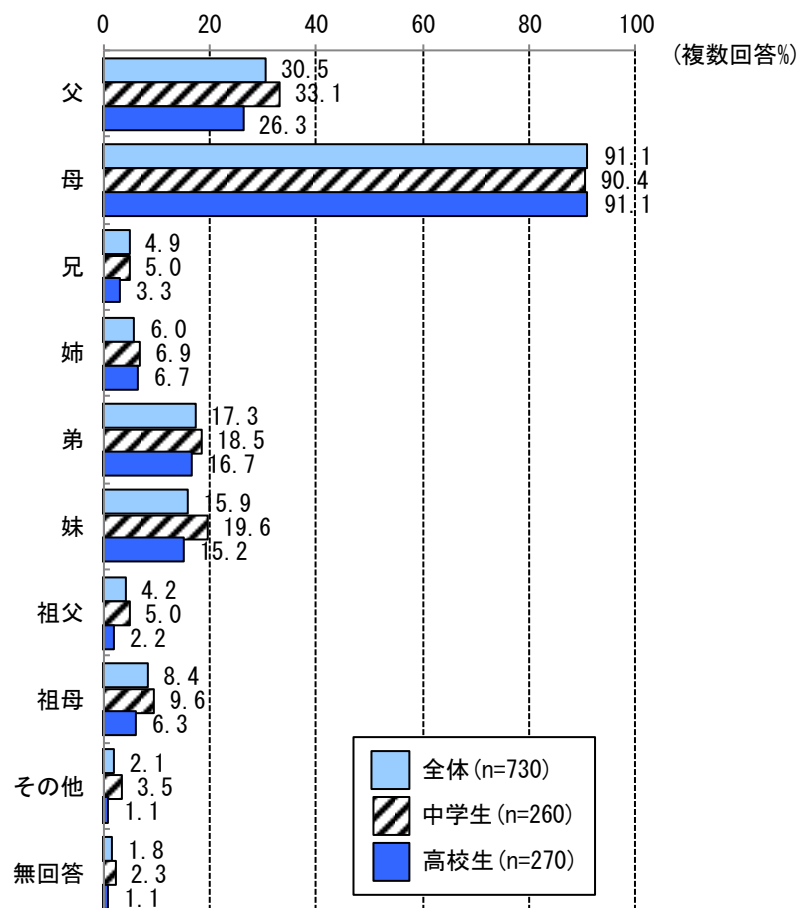
(2) 一緒に暮らしている人の手伝いや世話の状況

① 手伝いや世話をしている人との関係

【問10で「している」と答えた方に】

問11 どなたのお手伝いやお世話をしていますか。あなたから見た関係でお答えください。(〇はいくつでも)

手伝いや世話をしている相手は、中学生、高校生とも「母」(中学生90.4%、高校生91.1%)が最も多い。

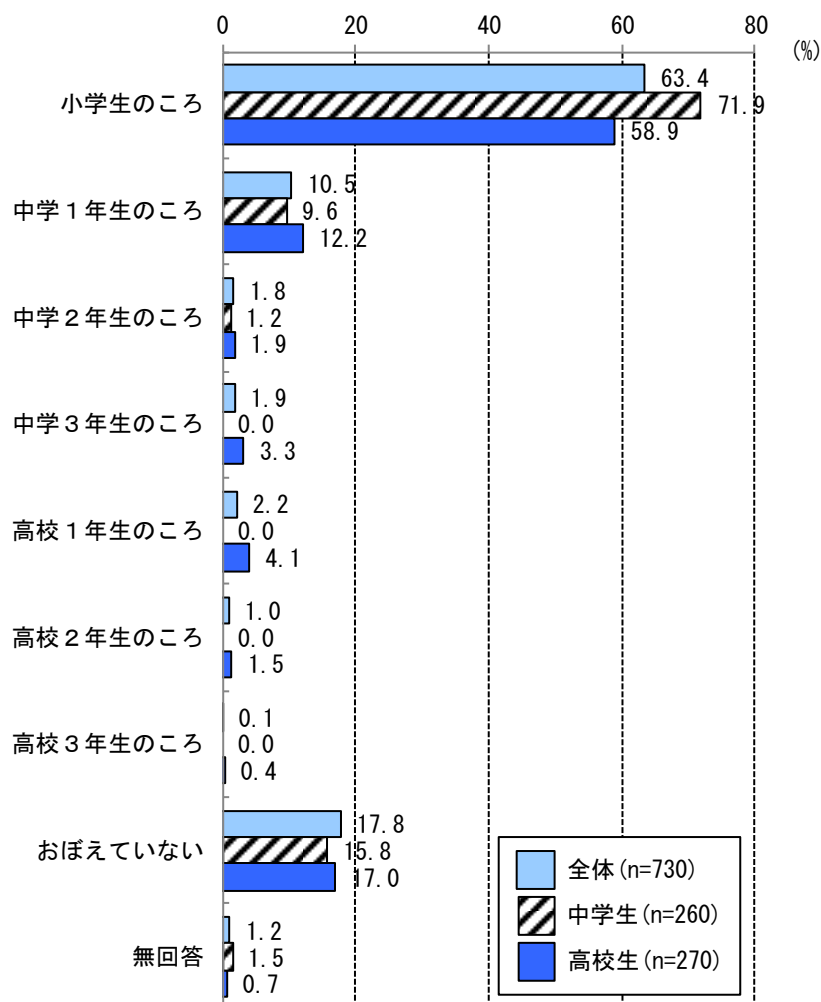


②手伝いや世話を始めた時期

【問10で「している」と答えた方に】

問12 あなたは、いつごろから一緒に暮らしている人のお手伝いやお世話をしていますか。およその学年をお答えください。(○は1つ)

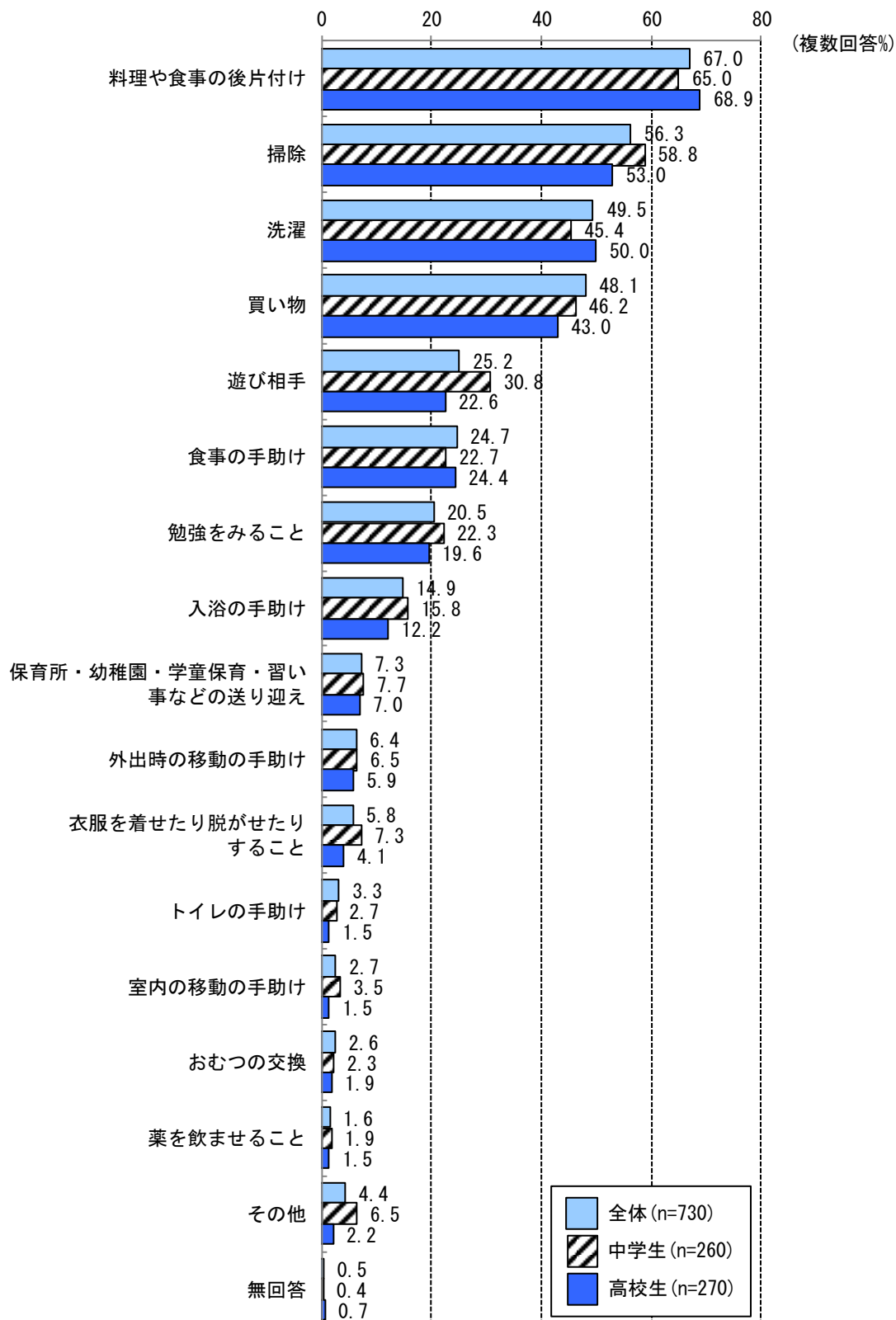
手伝いや世話を始めた時期は中学生・高校生とも「小学生のころ」(中学生71.9%、高校生58.9%)が最も多い。



③手伝いや世話の内容

【問10で「している」と答えた方に】
 問13 あなたが行っているお手伝いやお世話の内容は、次のうちどれですか。
 (〇はいくつでも)

手伝いや世話の内容は、中学生、高校生とも「料理や食事の後片付け」(中学生65.0%、高校生68.9%)が最も多く、次いで「掃除」(中学生58.8%、高校生53.0%)、「洗濯」(中学生45.4%、高校生50.0%)となっている。



トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けを行っている中高生は全体の中では少数となっているが、このような手伝いや世話をしている中高生では、買い物や料理、食事の後片付け、洗濯、掃除などの家事も併せて行っている割合が高く、また「勉強をみること」や「遊び相手」「保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え」などの割合も高い。

□並行して行っている手伝いや世話の状況

	n	(上段：回答者数 下段：%)																
		買い物	食事の手助け	料理や食事の後片付け	入浴の手助け	洗濯	掃除	トイレの手助け	おむつの交換	衣服を着せたり脱がせたりすること	室内の移動の手助け	外出時の移動の手助け	薬を飲ませること	勉強をみること	遊び相手	保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	その他	無回答
買い物	351 100.0	- -	106 30.2	257 73.2	65 18.5	197 56.1	225 64.1	17 4.8	14 4.0	29 8.3	17 4.8	35 10.0	10 2.8	94 26.8	106 30.2	40 11.4	5 1.4	-
食事の手助け	180 100.0	106 58.9	- -	136 75.6	75 41.7	100 55.6	121 67.2	15 8.3	14 7.8	27 15.0	14 7.8	29 16.1	9 5.0	49 27.2	69 38.3	31 17.2	4 2.2	-
料理や食事の後片付け	489 100.0	257 52.6	136 27.8	- -	74 15.1	261 53.4	301 61.6	21 4.3	16 3.3	35 7.2	13 2.7	37 7.6	10 2.0	100 20.4	127 26.0	42 8.6	15 3.1	-
入浴の手助け	109 100.0	65 59.6	75 68.8	74 67.9	- -	60 55.0	65 59.6	14 12.8	11 10.1	23 21.1	12 11.0	17 15.6	6 5.5	36 33.0	47 43.1	26 23.9	1 0.9	-
洗濯	361 100.0	197 54.6	100 27.7	261 72.3	60 16.6	- -	243 67.3	18 5.0	15 4.2	30 8.3	13 3.6	27 7.5	11 3.0	73 20.2	92 25.5	38 10.5	1 0.3	-
掃除	411 100.0	225 54.7	121 29.4	301 73.2	65 15.8	243 59.1	- -	18 4.4	15 3.6	32 7.8	13 3.2	34 8.3	9 2.2	94 22.9	112 27.3	38 9.2	10 2.4	-
トイレの手助け	24 100.0	17 70.8	15 62.5	21 87.5	14 58.3	18 75.0	18 75.0	- -	9 37.5	12 50.0	4 16.7	9 37.5	4 16.7	12 50.0	15 62.5	10 41.7	- -	-
おむつの交換	19 100.0	14 73.7	14 73.7	16 84.2	11 57.9	15 78.9	15 78.9	9 47.4	- -	18 94.7	5 26.3	11 57.9	6 31.6	11 57.9	17 89.5	11 57.9	- -	-
衣服を着せたり脱がせたりすること	42 100.0	29 69.0	27 64.3	35 83.3	23 54.8	30 71.4	32 76.2	12 28.6	18 42.9	- -	7 16.7	19 45.2	8 19.0	21 50.0	36 85.7	19 45.2	- -	-
室内の移動の手助け	20 100.0	17 85.0	14 70.0	13 65.0	12 60.0	13 65.0	13 65.0	4 20.0	5 25.0	7 35.0	- -	11 55.0	5 25.0	13 65.0	12 60.0	9 45.0	- -	-
外出時の移動の手助け	47 100.0	35 74.5	29 61.7	37 78.7	17 36.2	27 57.4	34 72.3	9 19.1	11 23.4	19 40.4	11 23.4	- -	8 17.0	21 44.7	28 59.6	18 38.3	- -	-
薬を飲ませること	12 100.0	10 83.3	9 75.0	10 83.3	6 50.0	11 91.7	9 75.0	4 33.3	6 50.0	8 66.7	5 41.7	8 66.7	- -	9 75.0	11 91.7	8 66.7	- -	-
勉強をみること	150 100.0	94 62.7	49 32.7	100 66.7	36 24.0	73 48.7	94 62.7	12 8.0	11 7.3	21 14.0	13 8.7	21 14.0	9 6.0	- -	103 68.7	31 20.7	3 2.0	-
遊び相手	184 100.0	106 57.6	69 37.5	127 69.0	47 25.5	92 50.0	112 60.9	15 8.2	17 9.2	36 19.6	12 6.5	28 15.2	11 6.0	103 56.0	- -	40 21.7	5 2.7	-
保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	53 100.0	40 75.5	31 58.5	42 79.2	26 49.1	38 71.7	38 71.7	10 18.9	11 20.8	19 35.8	9 17.0	18 34.0	8 15.1	31 58.5	40 75.5	- -	1 1.9	-
その他	32 100.0	5 15.6	4 12.5	15 46.9	1 3.1	1 3.1	10 31.3	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3 9.4	5 15.6	1 3.1	- -	-

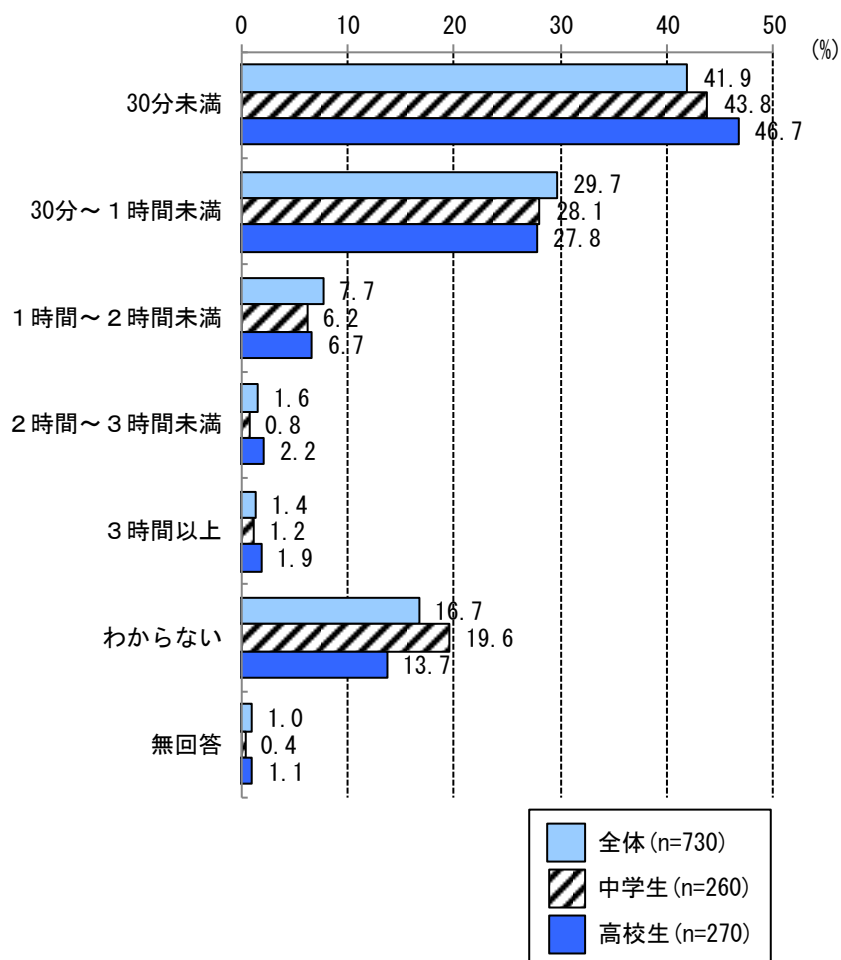
(複数回答)

④手伝いや世話を行っている1日あたりの時間

【問10で「している」と答えた方に】

問14 あなたが行っているお手伝いやお世話について、1日あたりのおよその時間をお答えください。(〇は1つ)

手伝いや世話の1日あたりの時間は、中学生、高校生とも「30分未満」(中学生43.8%、高校生46.7%)が最も多く、次いで「30分～1時間未満」(中学生28.1%、高校生27.8%)となっている。



トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けを行っている時間は、買い物や料理、食事の後片付け、洗濯、掃除などの家事の時間に比べ長い傾向がある。

□介護・介助に関する手伝いや世話にかかる時間の状況

(上段：回答者数 下段：%)

	n	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間以上	わからない	無回答
買い物	351 100.0	108 30.8	115 32.8	35 10.0	8 2.3	8 2.3	74 21.1	3 0.9
食事の手助け	180 100.0	48 26.7	67 37.2	21 11.7	3 1.7	2 1.1	38 21.1	1 0.6
料理や食事の後片付け	489 100.0	182 37.2	155 31.7	45 9.2	11 2.2	6 1.2	88 18.0	2 0.4
入浴の手助け	109 100.0	31 28.4	40 36.7	13 11.9	4 3.7	3 2.8	16 14.7	2 1.8
洗濯	361 100.0	132 36.6	117 32.4	32 8.9	11 3.0	7 1.9	60 16.6	2 0.6
掃除	411 100.0	150 36.5	134 32.6	41 10.0	10 2.4	7 1.7	68 16.5	1 0.2
トイレの手助け	24 100.0	5 20.8	3 12.5	8 33.3	2 8.3	1 4.2	5 20.8	-
おむつの交換	19 100.0	1 5.3	3 15.8	5 26.3	2 10.5	1 5.3	7 36.8	-
衣服を着せたり脱がせたりすること	42 100.0	2 4.8	10 23.8	11 26.2	2 4.8	2 4.8	15 35.7	-
室内の移動の手助け	20 100.0	3 15.0	6 30.0	3 15.0	-	1 5.0	5 25.0	2 10.0
外出時の移動の手助け	47 100.0	11 23.4	14 29.8	8 17.0	2 4.3	1 2.1	10 21.3	1 2.1
薬を飲ませること	12 100.0	1 8.3	2 16.7	3 25.0	1 8.3	1 8.3	3 25.0	1 8.3
勉強をみること	150 100.0	37 24.7	52 34.7	19 12.7	2 1.3	3 2.0	35 23.3	2 1.3
遊び相手	184 100.0	43 23.4	54 29.3	29 15.8	5 2.7	5 2.7	47 25.5	1 0.5
保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	53 100.0	9 17.0	13 24.5	10 18.9	4 7.5	4 7.5	12 22.6	1 1.9
その他	32 100.0	15 46.9	12 37.5	1 3.1	-	-	4 12.5	-

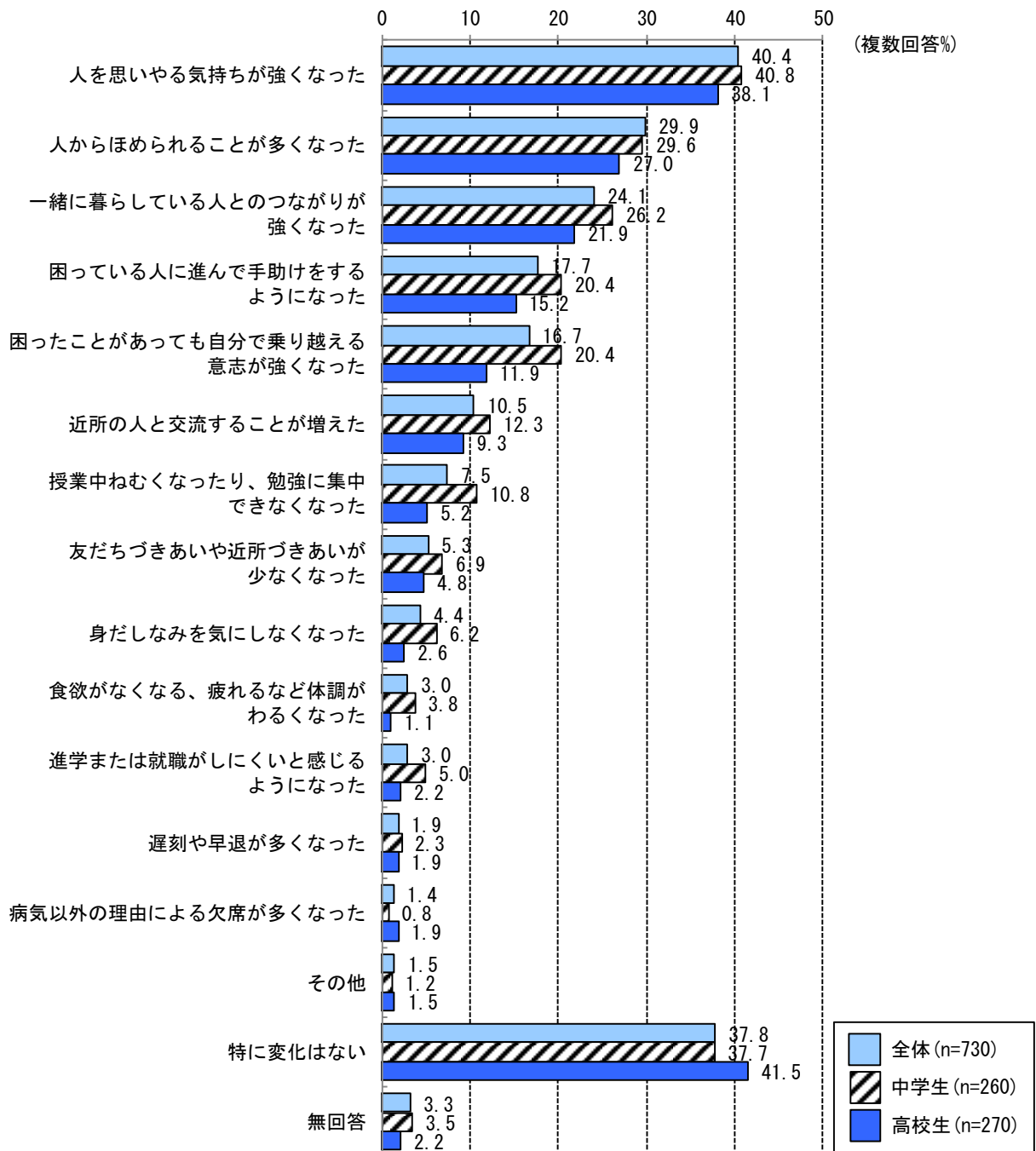
(複数回答)

⑤手伝いや世話をすることによる生活上の変化

【問10で「している」と答えた方に】

問15 あなたは、一緒に暮らしている人のお手伝いやお世話をすることで、ふだんの生活上、何か変化はありましたか。(〇はいくつでも)

手伝いや世話をすることによる生活上の変化について、「特に変化はない」が中学生では37.7%、高校生では41.5%となっている。逆に中学生の58.8%、高校生の56.3%には何らかの変化があり、その変化は「人を思いやる気持ちが強くなった」(中学生40.8%、高校生38.1%)が最も多くなっている。次いで「人からほめられることが多くなった」(中学生29.9%、高校生27.0%)、「一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった」(中学生26.2%、高校生21.9%)が続いている。



トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けなど介護・介助に関する手伝いや世話による生活の変化として、「人を思いやる気持ちが強くなった」をはじめ、「人からほめられることが多くなった」や「一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった」「困ったことがあっても自分で乗り越える意志が強くなった」「近所の人と交流することが増えた」「困っている人に進んで手助けをするようになった」を挙げる割合が全体を上回っており、プラスの効果が大きくなっている。

□介護・介助に関する手伝いや世話による生活上の変化

(上段：回答者数 下段：%)

	n	人を思いやる気持ちが強くなった	友だちづきあいや近所づきあいが少なくなった	人からほめられることが多くなった	身だしなみを気にしなくなった	が一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった	食欲がなくなる、疲れるなど体調がわるくなった	える意志が強くなった	困ったことがあっても自分で乗り越える意志が強くなった	授業中ねむくなったり、勉強に集中できなくなったり	遅刻や早退が多くなった	近所の人と交流することが増えた	病気以外の理由による欠席が多くなった	困っている人に進んで手助けをするようになった	ようになつた	進学または就職がしにくいと感じるようになった	その他	特に変化はない	無回答
全体	730	295	39	218	32	176	22	122	55	14	77	10	129	22	11	276	24		
	100.0	40.4	5.3	29.9	4.4	24.1	3.0	16.7	7.5	1.9	10.5	1.4	17.7	3.0	1.5	37.8	3.3		
買い物	351	163	23	130	21	94	15	73	29	9	52	6	77	13	2	112	14		
	100.0	46.4	6.6	37.0	6.0	26.8	4.3	20.8	8.3	2.6	14.8	1.7	21.9	3.7	0.6	31.9	4.0		
食事の手助け	180	85	12	74	8	58	6	43	15	4	26	-	40	8	2	55	4		
	100.0	47.2	6.7	41.1	4.4	32.2	3.3	23.9	8.3	2.2	14.4	-	22.2	4.4	1.1	30.6	2.2		
料理や食事の後片付け	489	207	22	161	19	123	16	90	34	9	57	6	98	14	8	172	17		
	100.0	42.3	4.5	32.9	3.9	25.2	3.3	18.4	7.0	1.8	11.7	1.2	20.0	2.9	1.6	35.2	3.5		
入浴の手助け	109	45	6	44	4	31	4	20	10	2	14	1	26	7	1	35	5		
	100.0	41.3	5.5	40.4	3.7	28.4	3.7	18.3	9.2	1.8	12.8	0.9	23.9	6.4	0.9	32.1	4.6		
洗濯	361	161	27	135	20	91	13	74	33	8	42	4	74	12	4	116	16		
	100.0	44.6	7.5	37.4	5.5	25.2	3.6	20.5	9.1	2.2	11.6	1.1	20.5	3.3	1.1	32.1	4.4		
掃除	411	169	24	144	19	114	14	92	39	10	54	5	88	16	4	138	12		
	100.0	41.1	5.8	35.0	4.6	27.7	3.4	22.4	9.5	2.4	13.1	1.2	21.4	3.9	1.0	33.6	2.9		
トイレの手助け	24	12	3	13	2	9	1	11	1	-	7	1	12	2	2	2	3		
	100.0	50.0	12.5	54.2	8.3	37.5	4.2	45.8	4.2	-	29.2	4.2	50.0	8.3	8.3	8.3	12.5		
おむつの交換	19	12	4	9	1	8	-	8	1	-	5	-	6	1	1	3	-		
	100.0	63.2	21.1	47.4	5.3	42.1	-	42.1	5.3	-	26.3	-	31.6	5.3	5.3	15.8	-		
衣服を着せたり脱がせたりすること	42	24	6	20	4	13	3	14	5	2	9	1	13	5	2	7	2		
	100.0	57.1	14.3	47.6	9.5	31.0	7.1	33.3	11.9	4.8	21.4	2.4	31.0	11.9	4.8	16.7	4.8		
室内の移動の手助け	20	10	3	9	3	5	1	9	1	-	5	-	7	1	-	7	-		
	100.0	50.0	15.0	45.0	15.0	25.0	5.0	45.0	5.0	-	25.0	-	35.0	5.0	-	35.0	-		
外出時の移動の手助け	47	26	5	26	3	17	2	14	2	2	14	1	14	3	1	13	2		
	100.0	55.3	10.6	55.3	6.4	36.2	4.3	29.8	4.3	4.3	29.8	2.1	29.8	6.4	2.1	27.7	4.3		
薬を飲ませること	12	9	5	6	2	3	-	5	1	1	3	-	3	2	-	1	1		
	100.0	75.0	41.7	50.0	16.7	25.0	-	41.7	8.3	8.3	25.0	-	25.0	16.7	-	8.3	8.3		
勉強をみること	150	67	10	52	8	51	2	35	11	3	31	-	40	7	-	54	5		
	100.0	44.7	6.7	34.7	5.3	34.0	1.3	23.3	7.3	2.0	20.7	-	26.7	4.7	-	36.0	3.3		
遊び相手	184	90	17	69	11	69	5	41	18	3	31	2	51	10	2	58	3		
	100.0	48.9	9.2	37.5	6.0	37.5	2.7	22.3	9.8	1.6	16.8	1.1	27.7	5.4	1.1	31.5	1.6		
保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え	53	26	7	21	3	19	-	14	4	1	10	1	16	4	1	13	5		
	100.0	49.1	13.2	39.6	5.7	35.8	-	26.4	7.5	1.9	18.9	1.9	30.2	7.5	1.9	24.5	9.4		
その他	32	13	1	6	1	7	1	3	5	-	2	1	4	4	2	12	2		
	100.0	40.6	3.1	18.8	3.1	21.9	3.1	9.4	15.6	-	6.3	3.1	12.5	12.5	6.3	37.5	6.3		

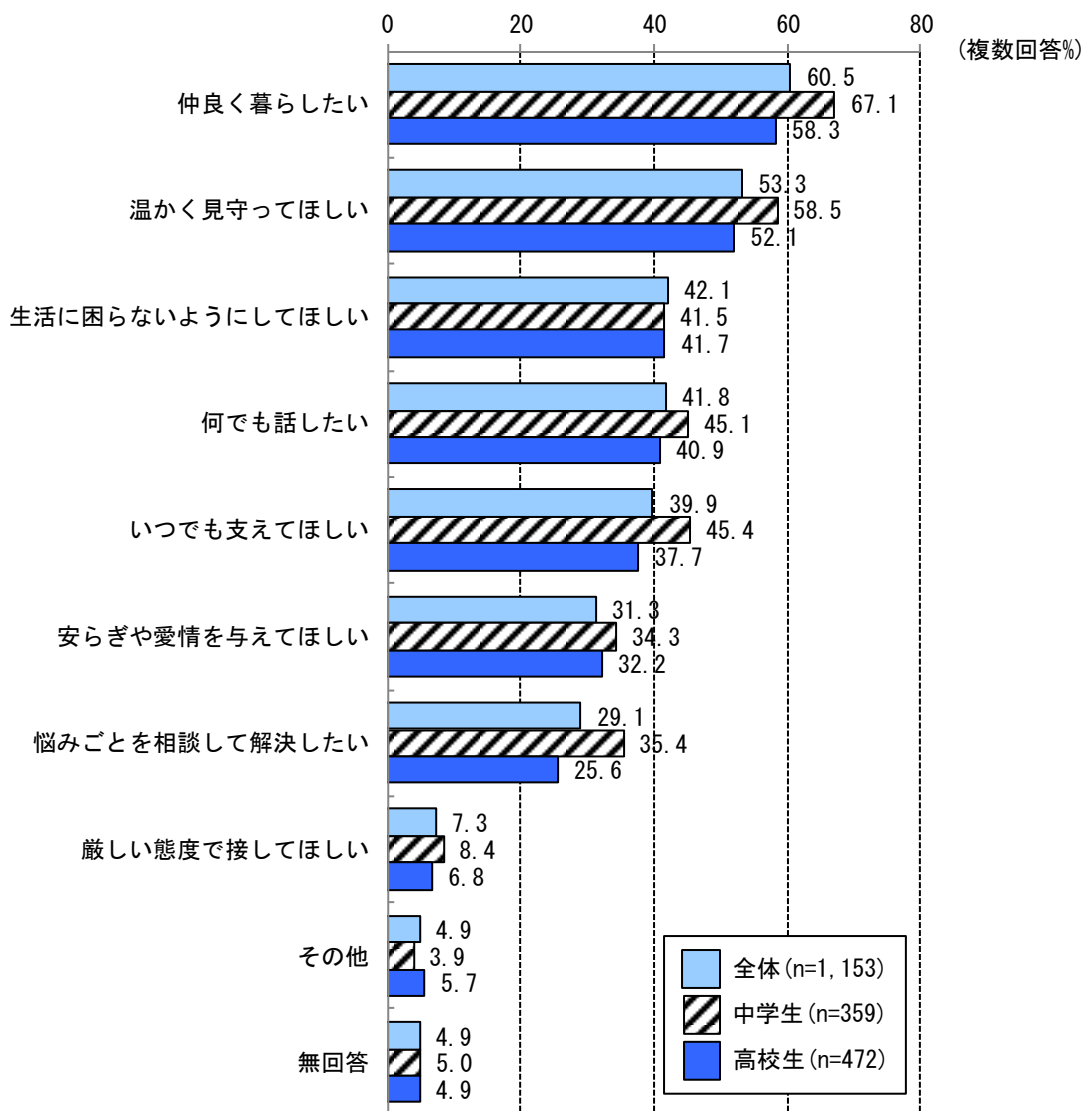
(複数回答)

3 一緒に暮らしている人や自身に対する考え方や見方について

(1) 一緒に暮らしている人に期待したいこと

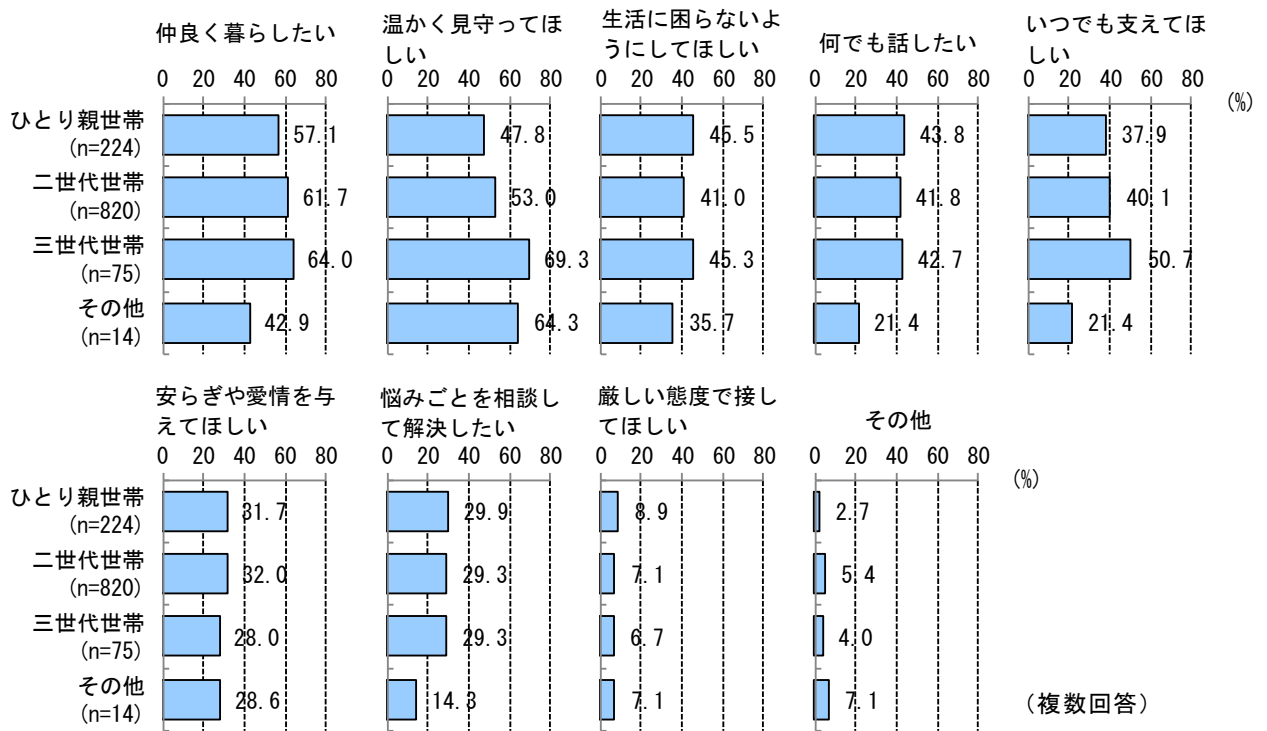
問16 あなたと一緒に暮らしている人に期待したいことは何ですか。(〇はいくつでも)

一緒に暮らしている人に期待することは、中学生、高校生とも「仲良く暮らしたい」(中学生67.1%、高校生58.3%)が最も多く、次いで「温かく見守ってほしい」(中学生58.5%、高校生52.1%)となっている。これらに次いで、中学生では「何でも話したい」(45.1%)、「いつでも支えてほしい」(45.4%)が多く、高校生は「生活に困らないようにしてほしい」(41.7%)が多くなっている。また、「悩みごとを相談して解決したい」は、高校生(25.6%)に比べ中学生(35.4%)の割合のほうが約10ポイント高くなっている。



家族構成別では、「仲良く暮らしたい」「温かく見守ってほしい」の割合は、ひとり親世帯が最も低くなっている。

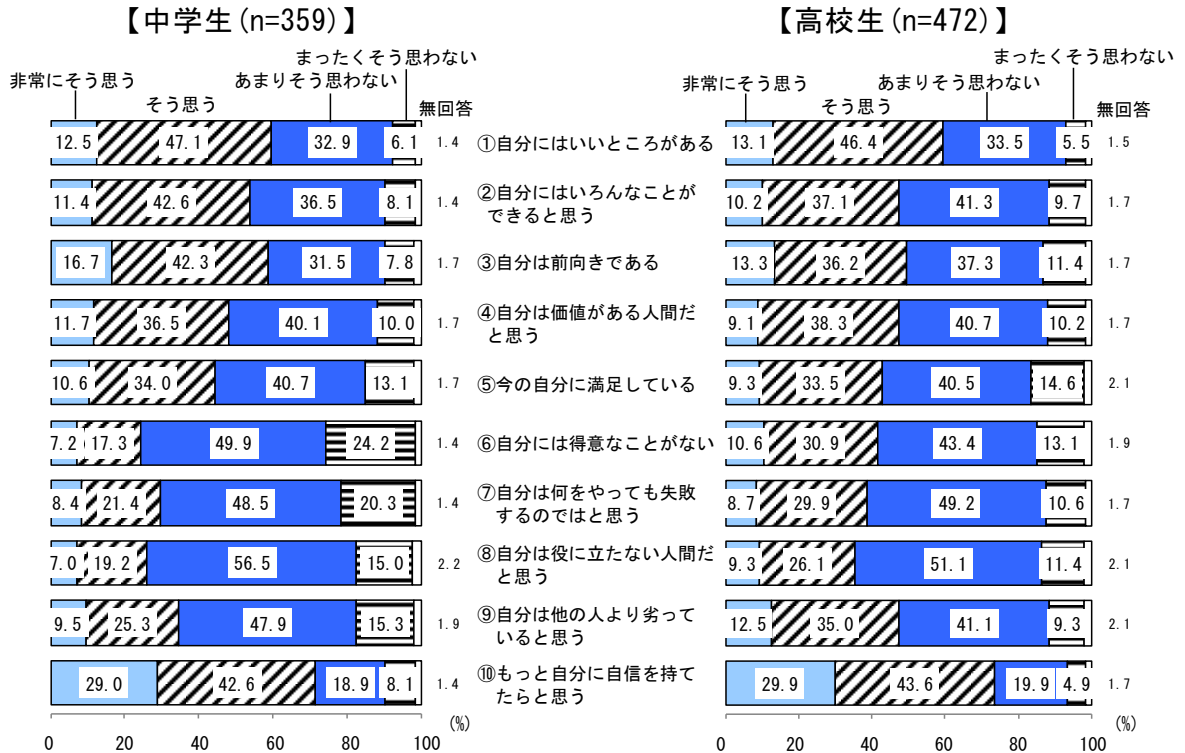
□家族構成別



(2) 自分自身のことに対する見方

問17 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれに1つ)

そう思う(「非常にそう思う」と「そう思う」の割合の合計)とそう思わない(「まったくそう思わない」と「あまりそう思わない」の割合の合計)との差をみると、中学生、高校生とも「⑩もっと自分に自信を持てたらと思う」についてはそう思わないに比べそう思うのほうに40ポイント上回っている。また、「⑤今の自分に満足している」については、中学生・高校生ともそう思わないがそう思うを10ポイント前後上回っている。



□「そう思う計」と「そう思わない計」の差 (①~⑤は a - b、⑥~⑩は b - a) (%)

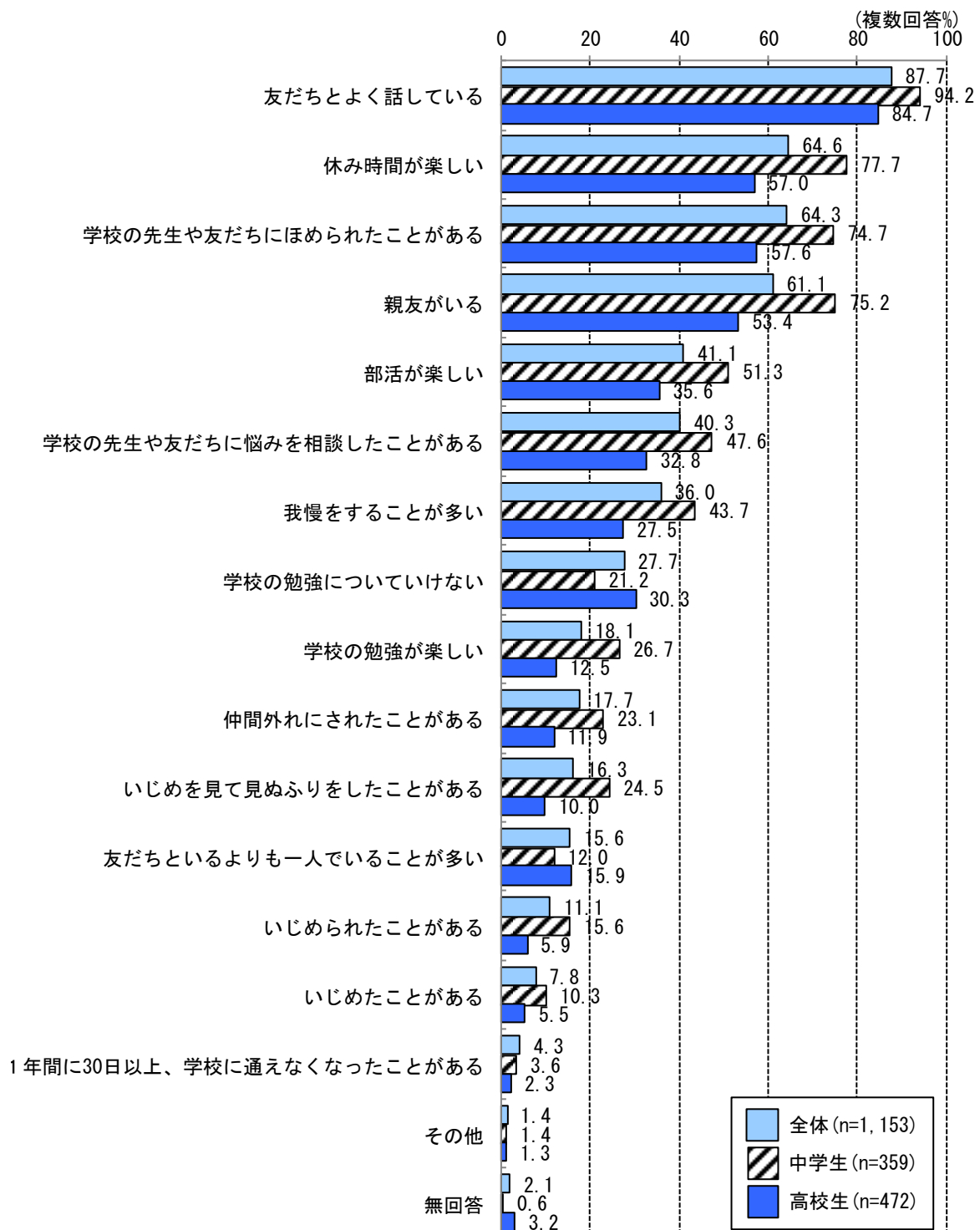
	a そう思う	b そう思わない	①と②との差	
中学生	①自分にはいいところがある	59.6	39.0	20.6
	②自分にはいろんなことができると思う	54.0	44.6	9.4
	③自分は前向きである	59.0	39.3	19.7
	④自分は価値がある人間だと思う	48.2	50.1	▲ 1.9
	⑤今の自分に満足している	44.6	53.8	▲ 9.2
	⑥自分には得意なことがない	24.5	74.1	49.6
	⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	29.8	68.8	39.0
	⑧自分は役に立たない人間だと思う	26.2	71.5	45.3
	⑨自分は他の人より劣っていると思う	34.8	63.2	28.4
	⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	71.6	27.0	▲ 44.6
高校生	①自分にはいいところがある	59.5	39.0	20.5
	②自分にはいろんなことができると思う	47.3	51.0	▲ 3.7
	③自分は前向きである	49.5	48.7	0.8
	④自分は価値がある人間だと思う	47.4	50.9	▲ 3.5
	⑤今の自分に満足している	42.8	55.1	▲ 12.3
	⑥自分には得意なことがない	41.5	56.5	15.0
	⑦自分は何をやっても失敗するのではと思う	38.6	59.8	21.2
	⑧自分は役に立たない人間だと思う	35.4	62.5	27.1
	⑨自分は他の人より劣っていると思う	47.5	50.4	2.9
	⑩もっと自分に自信を持てたらと思う	73.5	24.8	▲ 48.7

4 学校での過ごし方について

(1) 今までに学校で経験したこと

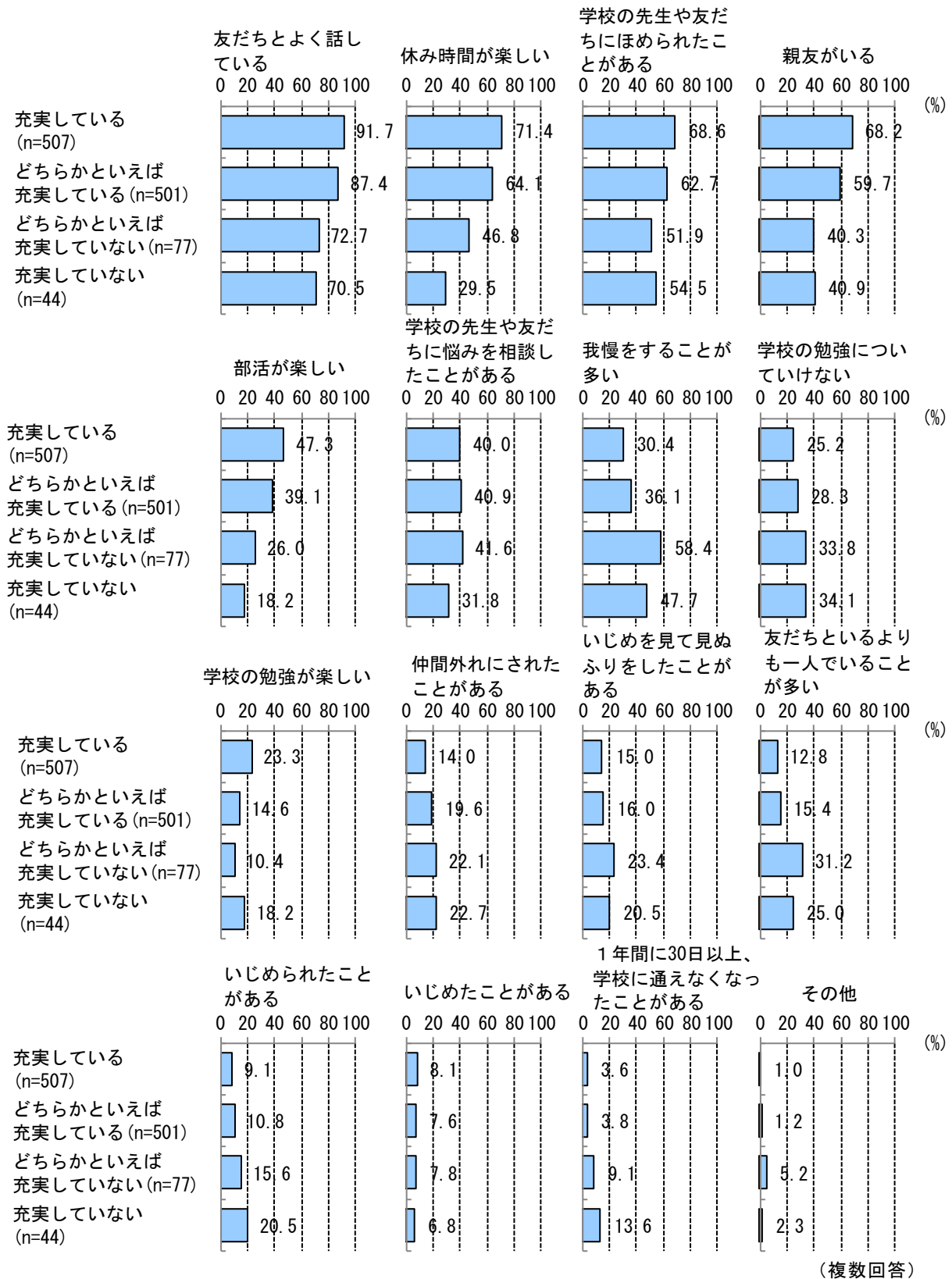
問18 あなたは、今までに学校で次のようなことを経験していますか。
(○はいくつでも)

今までに学校で経験したことは、中学生、高校生とも「友だちとよく話している」(中学生94.2%、高校生84.7%)が最も多い。これに次いで「休み時間が楽しい」(中学生77.7%、高校生57.0%)で高校生の割合が低い。以下、「学校の先生や友だちにほめられたことがある」(中学生74.7%、高校生57.6%)、「親友がいる」(中学生75.2%、高校生53.4%)などが続くが、「学校の勉強についていけない」「友だちといるよりも一人でいることが多い」を除く項目では、高校生の割合が低くなっている。



現在の生活が充実していないと回答した中高生で、「友だちとよく話している」や「休み時間が楽しい」「部活が楽しい」の各割合が低い。逆に「我慢をすることが多い」「学校の勉強についていけない」「友だちといるよりも一人でいることが多い」「いじめられたことがある」「1年間に30日以上、学校に通えなくなったことがある」の各割合が高くなっている。

□生活の充実感別



(複数回答)

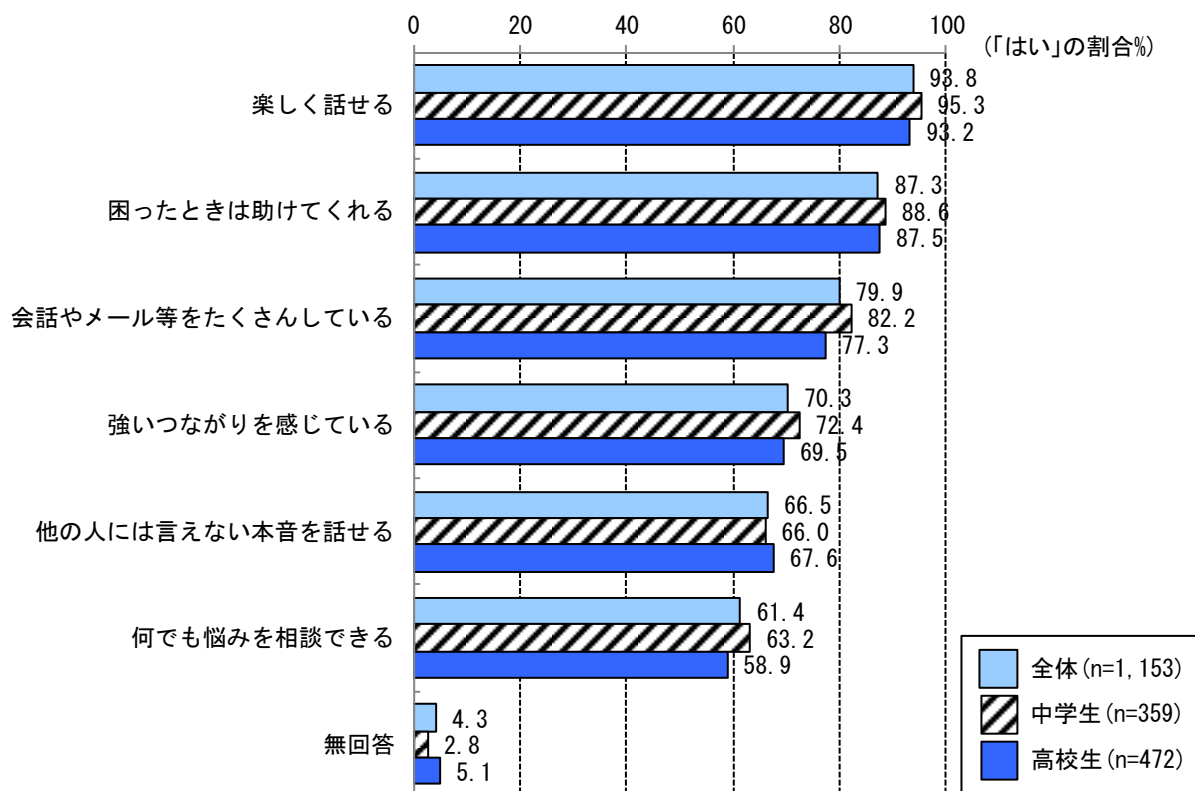
(2) 学校で出会った友だちとのかかわり

問19 学校で出会った友だちとあなたのかかわりは、どのようなものですか。

(○はそれぞれに1つ)

学校で出会った友だちとのかかわりの状況を見ると、中学生、高校生とも「楽しく話せる」(中学生95.3%、高校生93.2%)、「困った時は助けてくれる」(中学生88.6%、高校生87.5%)、「会話やメール等をたくさんしている」(中学生82.2%、高校生77.3%)が上位となっている。

「他の人には言えない本音を離せる」(中学生66.0%、高校生67.6%)や「何でも相談できる」(中学生63.2%、高校生58.9%)は下位となっている。



5 ふだんの過ごし方などについて

(1) 学校以外の時間の過ごし方

問20 あなたは、平日の学校以外の時間および休日に、どこで誰と何をして過ごしていますか。①～③の平日、休日それぞれについて、「する」「しない」どちらかに○をつけてください。

(ア) 平日の学校以外の時間

中学生、高校生とも「住んでいるところで、パソコンやスマートフォンなどを使って過ごす」(中学生88.0%、高校生94.3%)が最も多い。また、「住んでいるところで、ひとりでテレビを見たり音楽を聴いたりする」(中学生82.7%、高校生86.2%)、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり音楽を聴いたり話をしたりする」(中学生83.8%、高校生82.2%)が多くなっている。

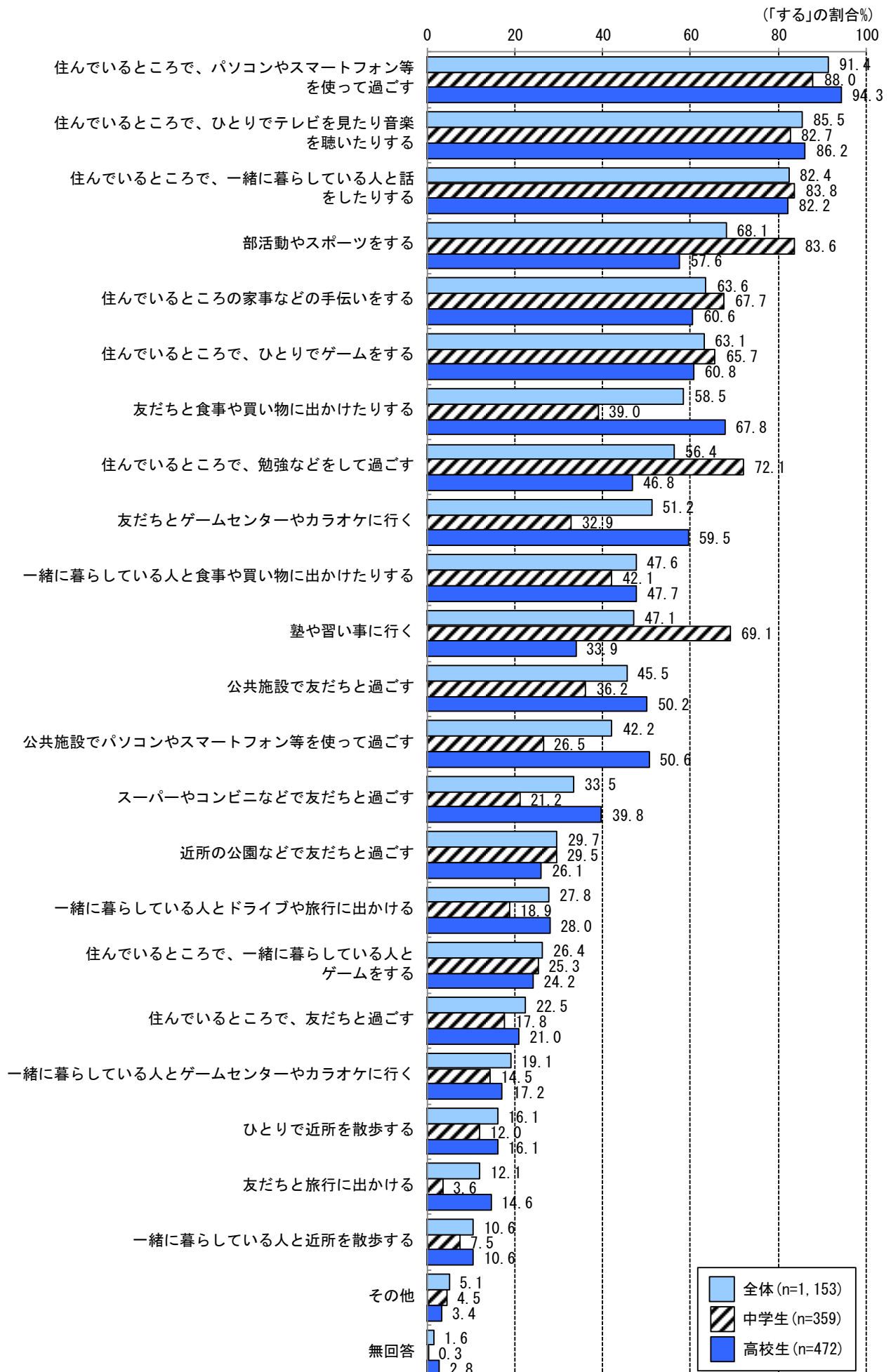
高校生に比べ中学生の割合が10ポイント以上高い過ごし方は、「部活動やスポーツをする」(中学生83.6%、高校生57.6%)、「住んでいるところで、勉強などをして過ごす」(中学生72.1%、高校生46.8%)、「塾や習い事に行く」(中学生69.1%、高校生33.9%)である。一方、高校生の割合のほうが10ポイント以上高い過ごし方は、「友だちと食事や買い物に出かけたり、映画やスポーツを見に行ったりする」(中学生39.0%、高校生67.8%)、「友だちとゲームセンターやカラオケに行く」(中学生32.9%、高校生59.5%)、「公共施設で友だちと過ごす」(中学生36.2%、高校生50.2%)、「公共施設でパソコンやスマートフォンなどを使って過ごす」(中学生26.5%、高校生50.6%)、「スーパーやコンビニなどで友だちと過ごす」(中学生21.2%、高校生39.8%)である。

(イ) 休日

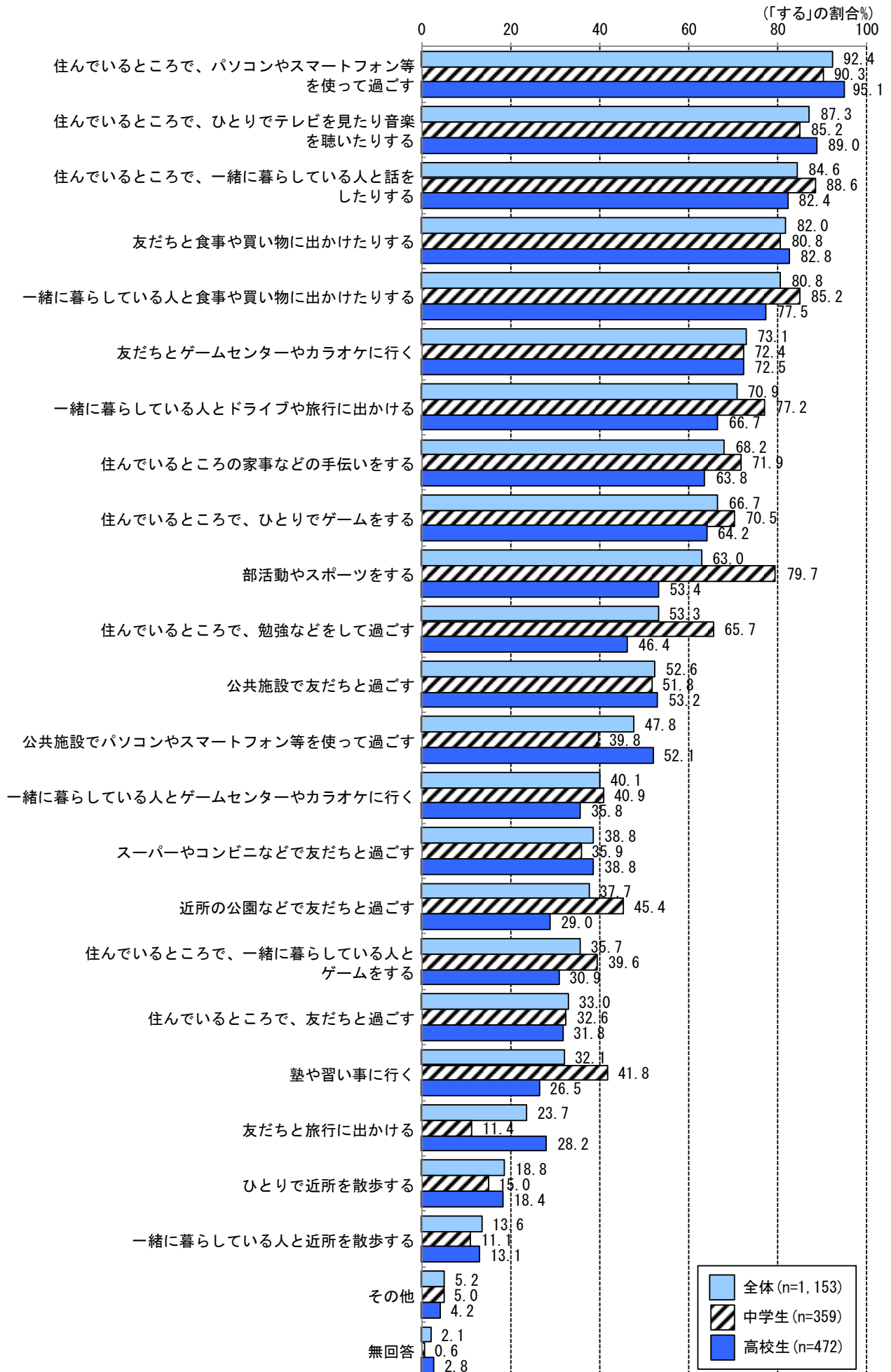
中学生、高校生とも「住んでいるところで、パソコンやスマートフォンなどを使って過ごす」(中学生90.3%、高校生95.1%)が最も多い。また、「住んでいるところで、ひとりでテレビを見たり音楽を聴いたりする」(中学生85.2%、高校生89.0%)、「住んでいるところで、一緒に暮らしている人とテレビを見たり音楽を聴いたり話をしたりする」(中学生88.6%、高校生82.4%)が多くなっている。

高校生に比べ中学生の割合が10ポイント以上高い過ごし方は、「一緒に暮らしている人とドライブや旅行に出かける」(中学生77.2%、高校生66.7%)、「部活動やスポーツをする」(中学生79.7%、高校生53.4%)、「住んでいるところで、勉強などをして過ごす」(中学生65.7%、高校生46.4%)、「近所の公園などで友だちと過ごす」(中学生45.4%、高校生29.0%)、「塾や習い事に行く」(中学生41.8%、高校生26.5%)である。一方、高校生の割合のほうが10ポイント以上高い過ごし方は、「公共施設でパソコンやスマートフォンなどを使って過ごす」(中学生39.8%、高校生52.1%)、「友だちと旅行に出かける」(中学生11.4%、高校生28.2%)である。

□ (ア) 平日の学校以外の時間の過ごし方



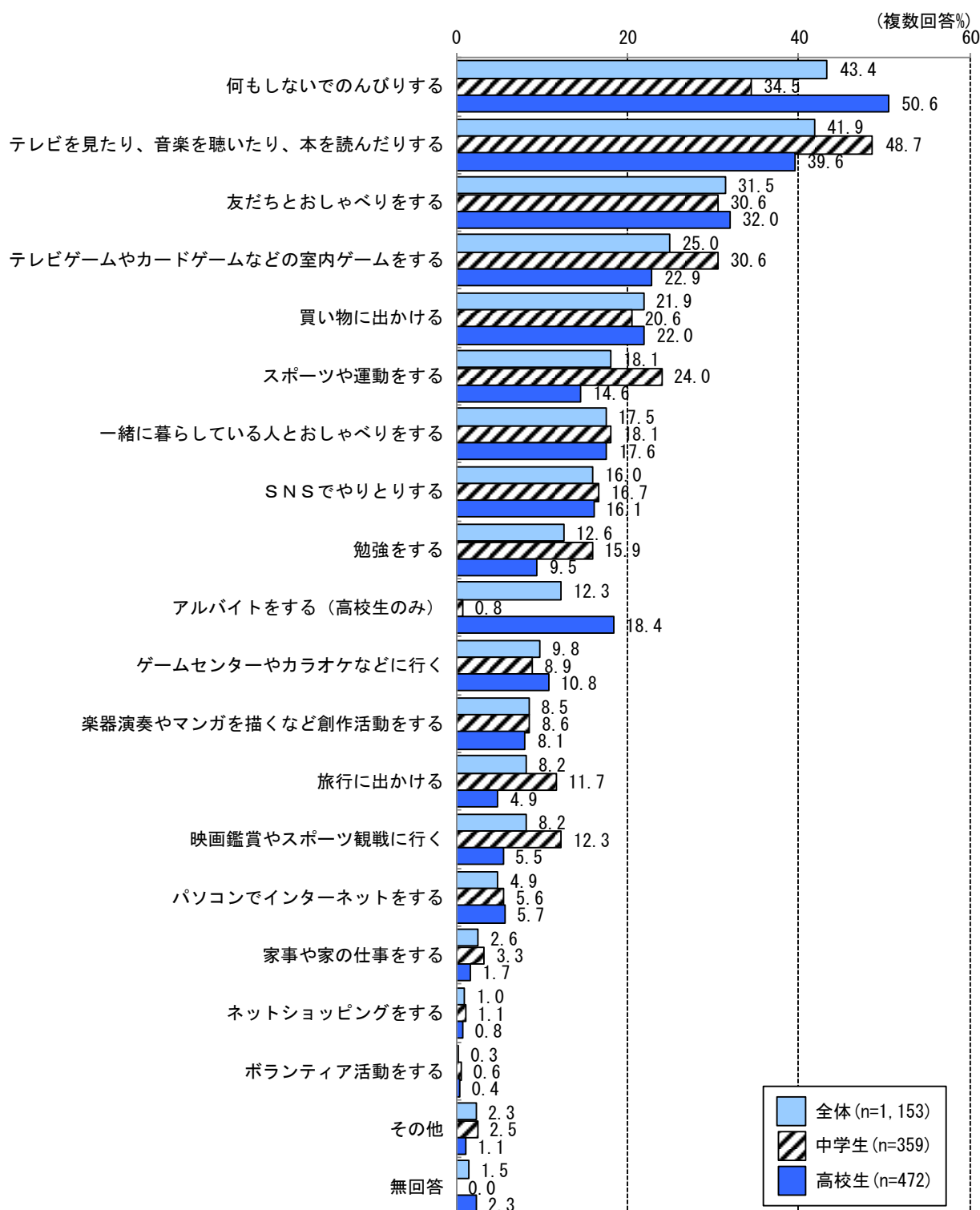
□ (イ) 休日の過ごし方



(2) 学校以外の時間の希望する過ごし方

問21 あなたは、学校以外の時間をどのように過ごしたいと思いますか。
(優先度の高いもの3つをお選びください。)(〇は3つまで)

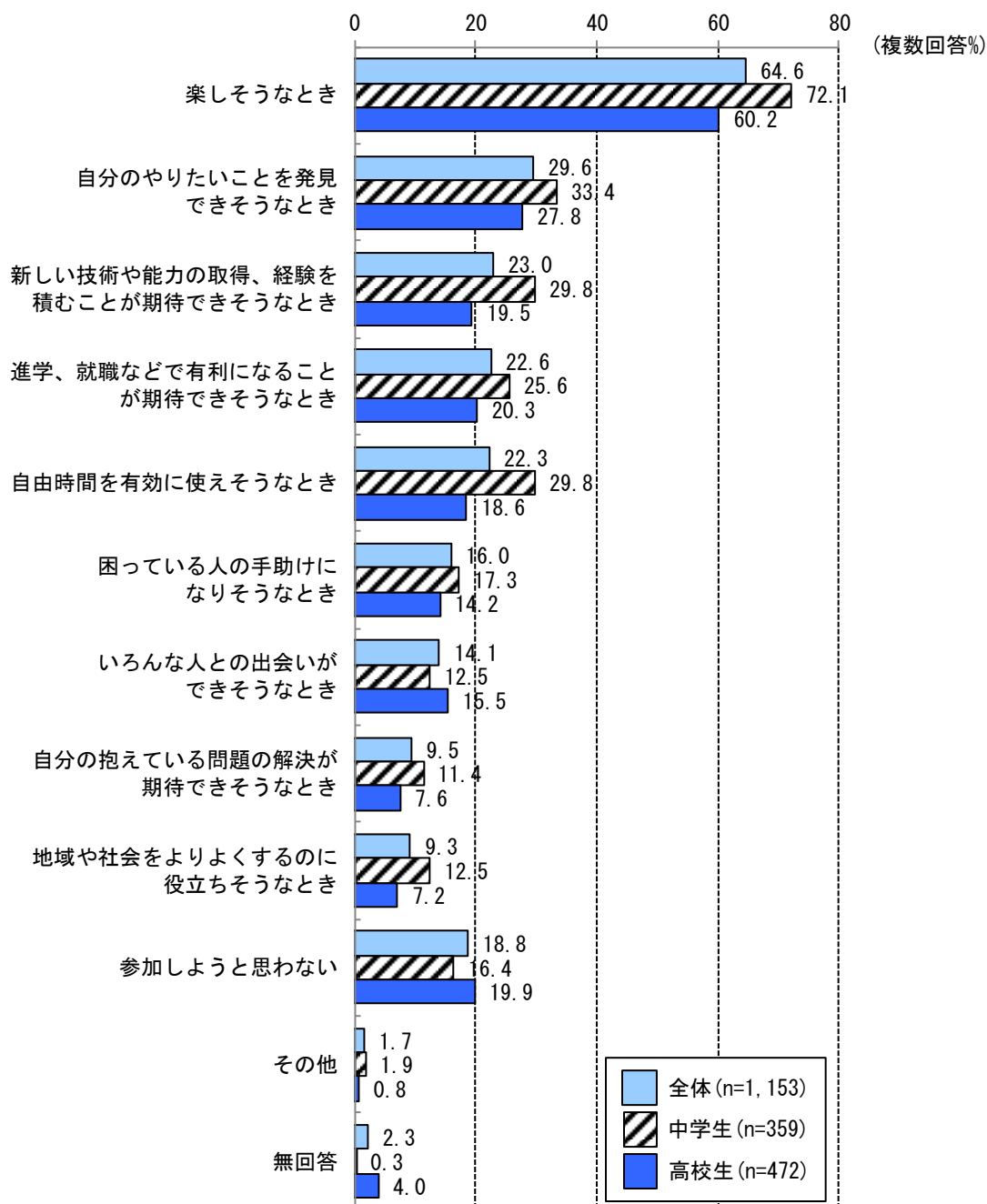
高校生は「何もしないでのんびりする」が50.6%で最も多く、中学生は「テレビを見たり、音楽を聴いたり、本を読んだりする」が48.7%で最も多い。「テレビゲームやカードゲームなどの室内ゲームをする」(中学生30.6%、高校生22.9%)、「スポーツや運動をする」(中学生24.0%、高校生14.6%)、「勉強をする」(中学生15.9%、高校生9.5%)、「旅行に出かける」(中学生11.7%、高校生4.9%)、「映画鑑賞やスポーツ観戦に行く」(中学生12.3%、高校生5.5%)は中学生の割合が高くなっている。



(3) 学校以外の活動に参加したいと思うきっかけ

問22 あなたは、どのような場合に、学校以外の活動（趣味の活動やボランティア、イベントなど）に参加しようと思いますか。（〇はいくつでも）

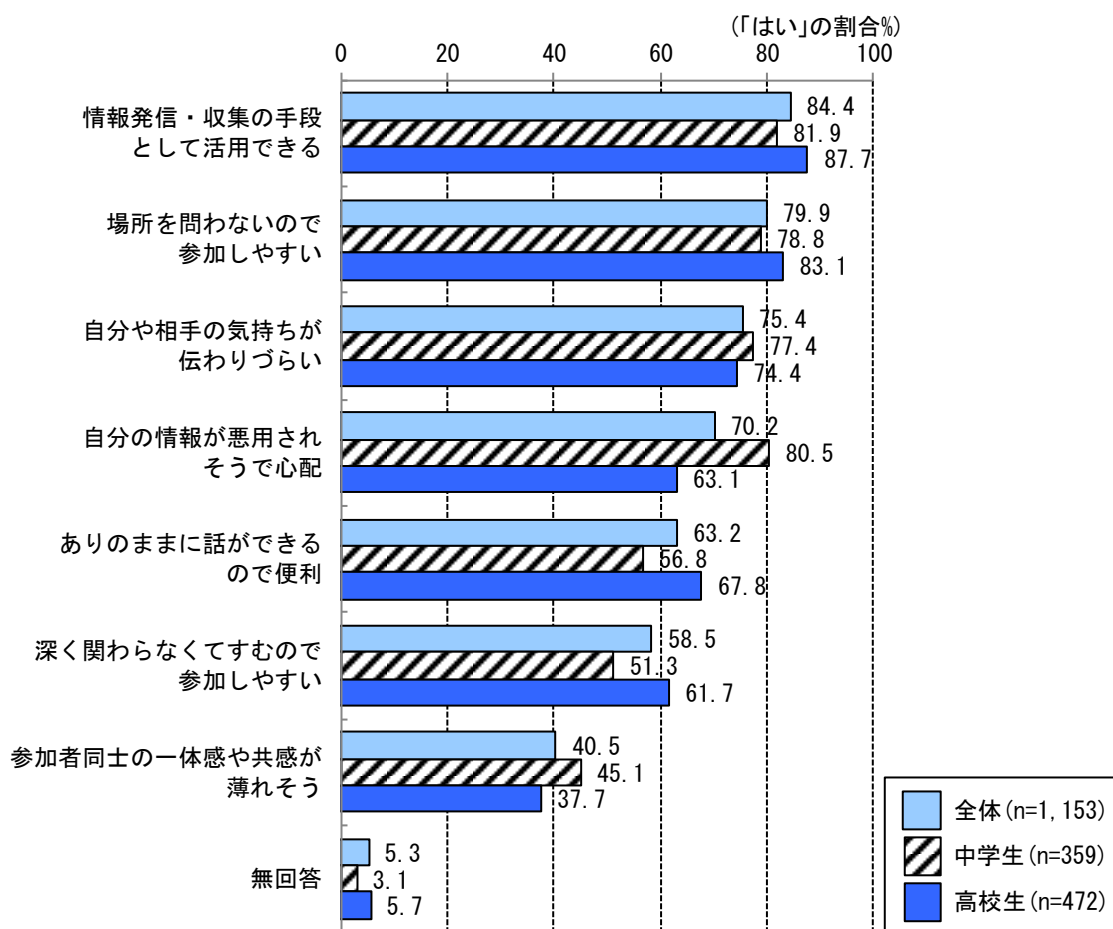
中学生、高校生とも「楽しそうなとき」（中学生72.1%、高校生60.2%）が最も多く、次いで「自分のやりたいことを発見できそうなとき」（中学生33.4%、高校生27.8%）で、中学生は「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりすることが期待できそうなとき」と「自由時間を有効に使いえそうなとき」（各29.8%）、高校生は「進学、就職などで有利になることが期待できそうなとき」（20.3%）となっている。



(4) SNSを利用してコミュニケーションをとることについての考え

問23 あなたは、SNSを利用してコミュニケーションをとることについてどう考えますか。(〇はそれぞれに1つ)

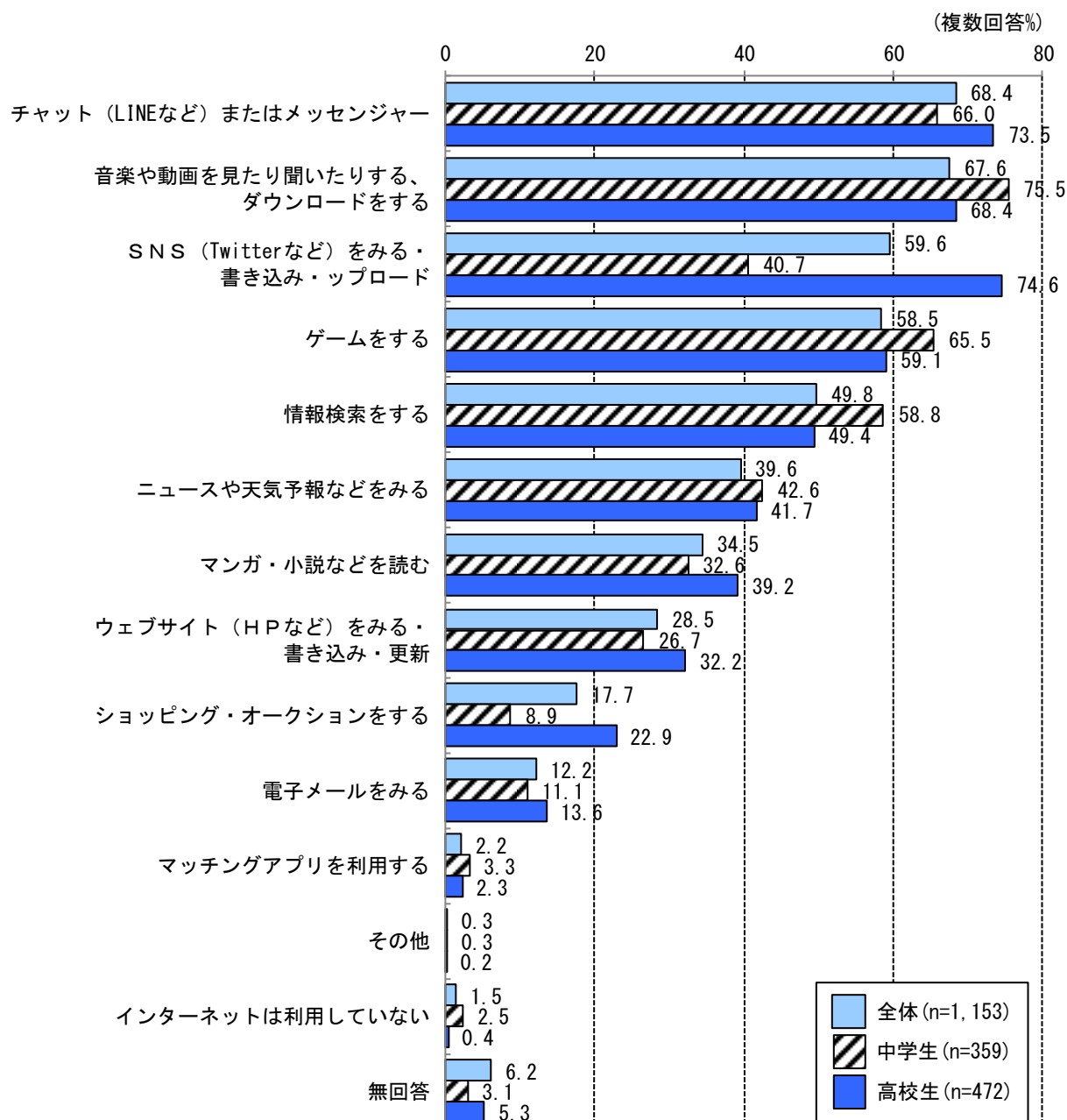
SNSを利用してコミュニケーションをとることについて、中学生、高校生とも「情報発信・収集の手段として活用できる」(中学生81.9%、高校生87.7%)が最も多い。これに次いで中学生では「自分の情報が悪用されそうで心配」(80.5%)が、高校生は「場所を問わないので参加しやすい」(83.1%)となっている。情報の悪用への不安は中学生の割合が高校生に比べ高くなっている。高校生では「ありのままに話ができるので便利」(67.8%)や「深く関わらなくてすむので参加しやすい」(61.7%)が中学生に比べ高くなっている。



(5) インターネットの利用目的

問24 あなたは、ふだんインターネットをどのような目的で利用していますか。
(〇はいくつでも)

中学生は、「音楽や動画を見たり聞いたりする、ダウンロードをする」(75.5%)が最も多くなっている。高校生は「チャット (LINEなど) またはメッセージ」(73.5%) や「SNS (Facebook、Twitter、Instagramなど)」(74.6%)が多い。特にSNSは中学生に比べ高校生のほうが33.9ポイント高い。また、「ショッピング・オークションをする」も中学生(8.9%)に比べ高校生の割合(22.9%)のほうが高くなっている。



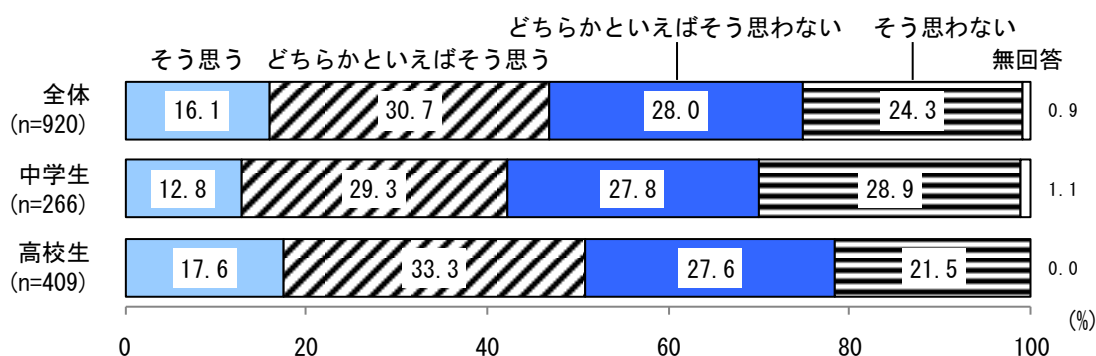
(7) インターネットやSNSを利用した他者とのかかわり方に対する考え

【問24で「SNSをみる・書き込み・アップロード」「ウェブサイトをみる・書き込み・アップロード」「チャットまたはメッセージ」のいずれかを回答した方は、問25についてお答えください。】

問25 インターネットやSNSを利用したほかの人とのかかわり方で、次のように感じることはありますか。(〇はそれぞれに1つずつ)

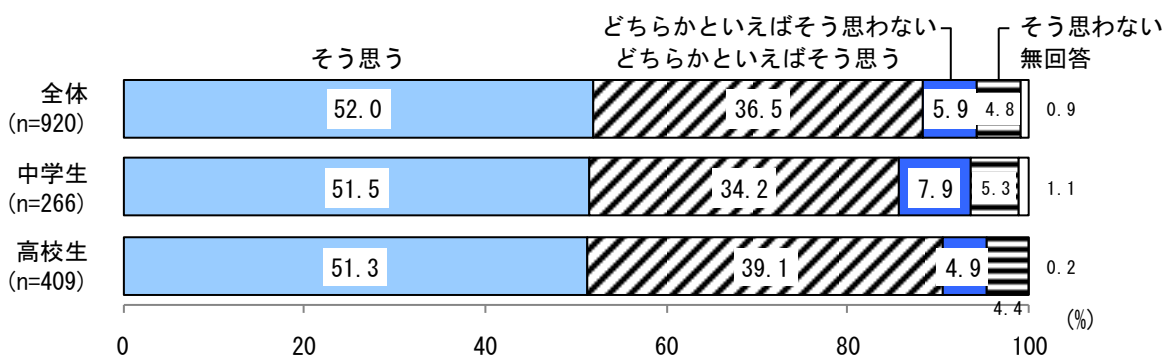
①何でも悩みを相談できる

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『そう思う』の割合は、中学生が42.1%に対して高校生は50.9%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の56.7%は『そう思わない』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答している。



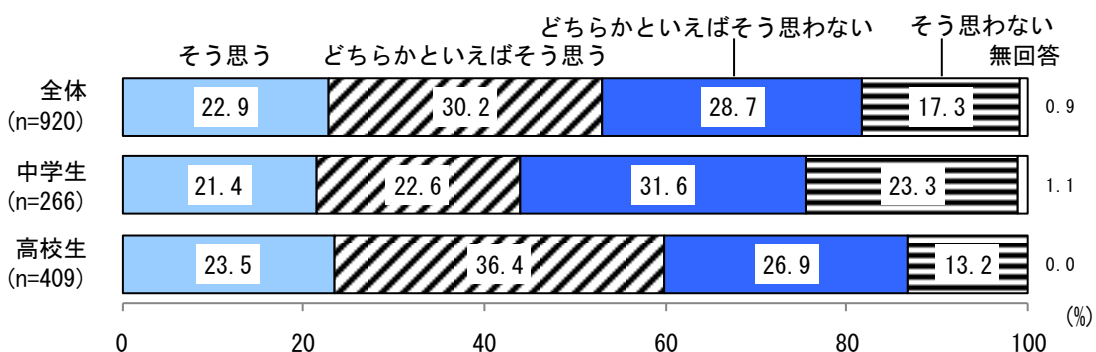
②楽しく話せる

中学生、高校生とも「そう思う」が5割で、『そう思う』の割合が各々8～9割を占めている。



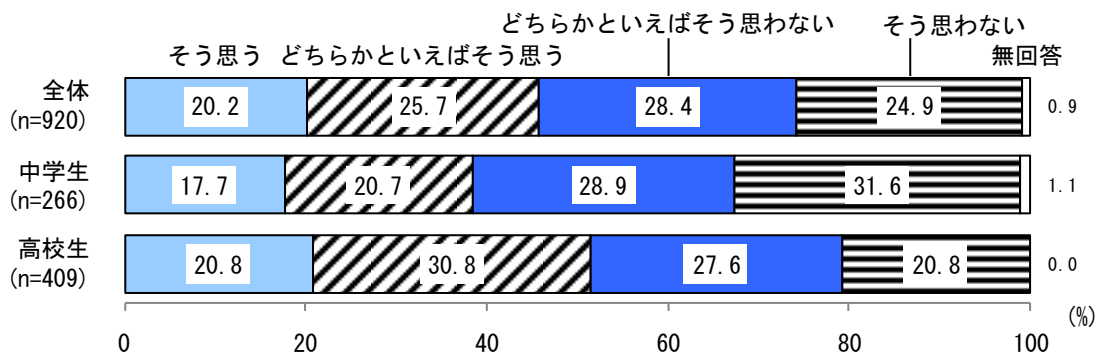
③困ったときは助けてくれる

『そう思う』の割合は、中学生が44.0%に対して高校生は59.9%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の54.9%は『そう思わない』と回答している。



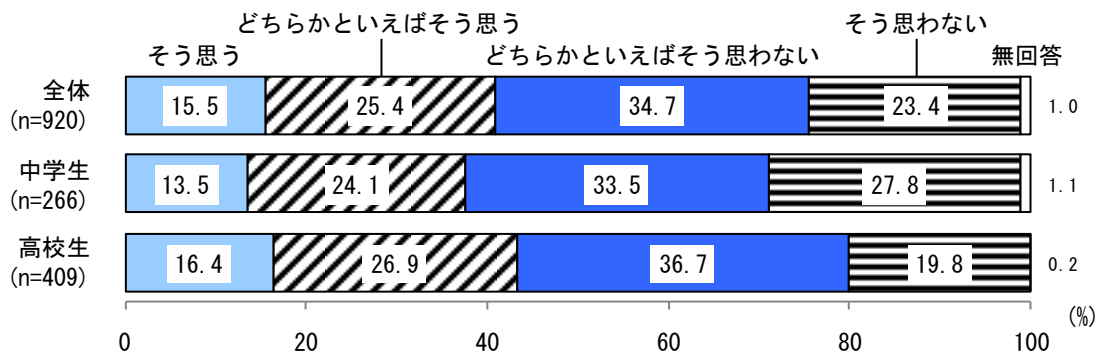
④他の人には言えない本音を話せる

『そう思う』の割合は、中学生が38.4%に対して高校生は51.6%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の60.5%は『そう思わない』と回答している。



⑤強いつながりを感じる

『そう思う』の割合は、中学生が37.6%に対して高校生は43.3%で、高校生の割合が高くなっている。逆に中学生の61.3%は『そう思わない』と回答している。



(8) ふだんの生活の中でのコミュニケーションの手段・方法

問26 あなたは、①～⑪の人に対し、ふだんの生活でどのような手段・方法を使って、コミュニケーションをとりますか。(最もよく使う手段・方法にそれぞれ○は1つずつ)

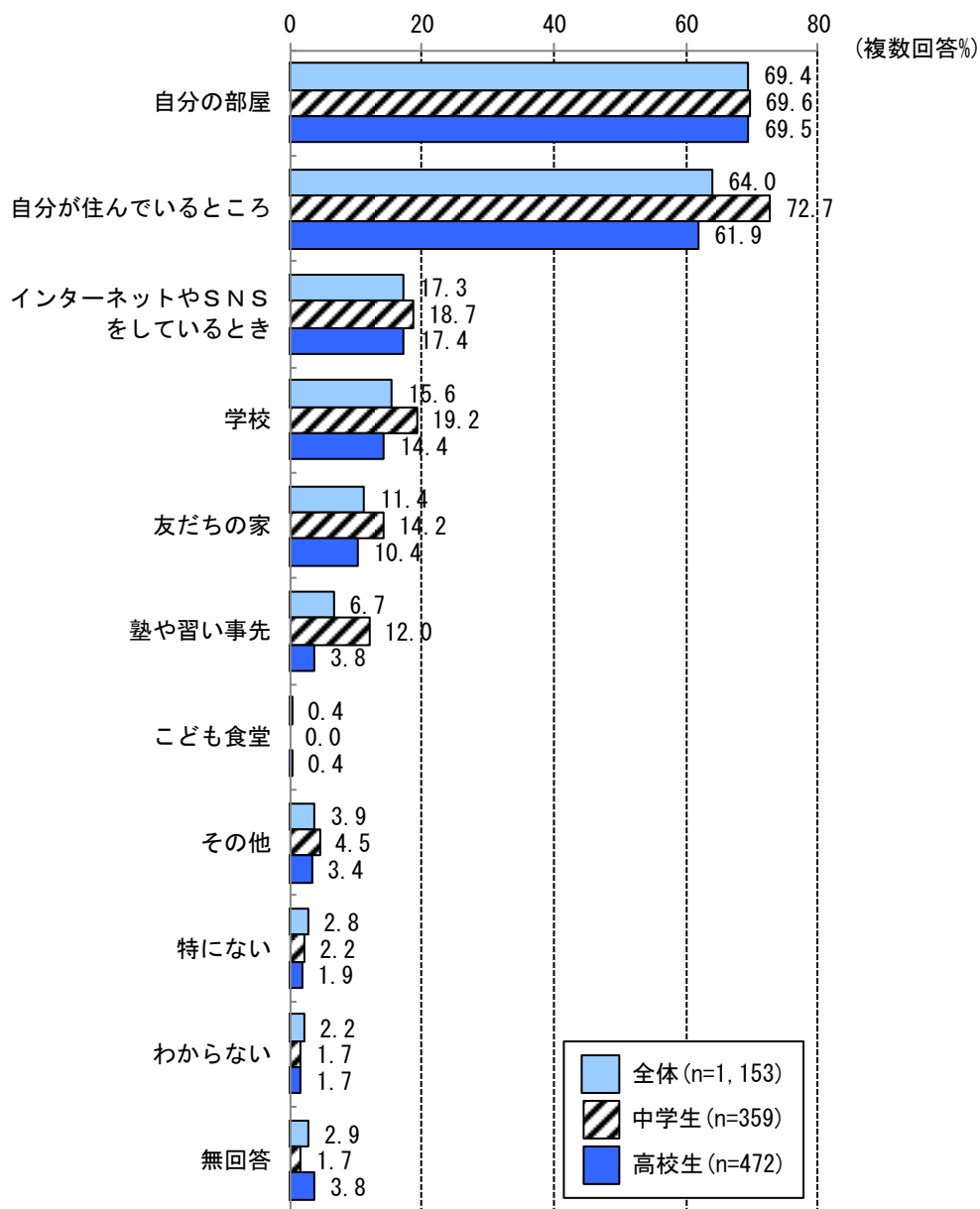
中学生は、「①親」「②きょうだい」「④ 学校で仲の良い友だち」「⑧学校の先生」「⑨塾や習い事の先生」に対しては、「直接会って話す」が多く、特に親・きょうだい・学校の先生では8割前後を占めている。「⑤学校で仲の良い友だち(異性)」「⑥ 学校以外で仲の良い友だち(同性)」「⑦学校以外で仲の良い友だち(異性)」に対しては「メールやSNSでやりとりする」が多い。高校生の場合も中学生と同様の傾向がみられ、「⑦学校以外で仲の良い友だち(異性)」については「直接会って話す」が多くなっている。

		直接会って話す	電話でも含む(テレビ)	メールやSNSでやりとりする	掲示板やサイトの掲示	ウェブサイトでやりとりする	ゲーム内でのやりとり	ソーシャルメディア(YouTubeなど)	その他の人(いない)	無回答
中学生 (n=359)	①親	89.1	2.2	2.2	-	-	0.8	5.6		
	②きょうだい	80.2	1.4	3.1	-	-	10.3	5.0		
	③同居していない親族	22.6	38.4	24.2	-	-	8.6	6.1		
	④学校で仲の良い友だち(同性)	63.2	6.4	21.2	-	1.7	2.5	5.0		
	⑤学校で仲の良い友だち(異性)	31.5	3.9	40.1	-	-	20.1	4.5		
	⑥学校以外で仲の良い友だち(同性)	24.2	9.2	46.8	-	2.5	12.0	5.3		
	⑦学校以外で仲の良い友だち(異性)	12.5	6.7	39.8	0.3	0.3	36.2	4.2		
	⑧学校の先生	79.4	4.2	0.6	-	-	13.6	2.2		
	⑨塾や習い事の先生	55.4	5.0	4.7	-	-	32.3	2.5		
	⑩インターネットやSNSで知り合った人	0.6	0.8	20.1	2.5	5.0	67.1	3.9		
	⑪その他の人	1.4	0.3	0.8	-	0.3	16.7	80.5		
高校生 (n=472)	①親	87.1	2.3	2.5	-	-	1.5	6.6		
	②きょうだい	77.3	1.9	4.7	-	-	8.9	7.2		
	③同居していない親族	26.7	29.2	26.7	-	-	11.0	6.4		
	④学校で仲の良い友だち(同性)	66.5	2.5	21.0	0.2	-	2.3	7.4		
	⑤学校で仲の良い友だち(異性)	41.5	2.1	31.8	0.2	0.2	17.4	6.8		
	⑥学校以外で仲の良い友だち(同性)	23.3	6.4	56.6	-	0.4	5.9	7.4		
	⑦学校以外で仲の良い友だち(異性)	15.7	4.7	51.3	0.2	0.2	22.0	5.9		
	⑧学校の先生	69.1	1.9	4.2	0.2	-	18.6	5.9		
	⑨塾や習い事の先生	33.9	2.5	6.4	-	-	51.1	6.1		
	⑩インターネットやSNSで知り合った人	6.6	2.5	34.7	0.4	1.7	47.7	6.4		
	⑪その他の人	3.0	1.1	0.6	-	-	13.1	82.2		

(9) ほっとしたり居心地がよいと感じる時や場所

問27 今のあなたにとって、ほっとしたり、居心地がよいと感じる時や場所はどれですか。(〇はいくつでも)

中学生は「自分の住んでいるところ」(72.7%)が、高校生は「自分の部屋」(69.5%)が最も多い。

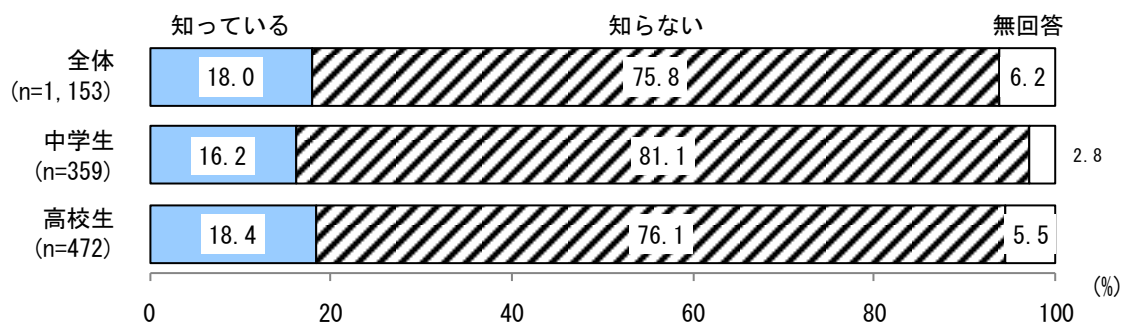


(10) JKビジネスの認知状況

① 認知状況

問28 あなたは、新聞やテレビなどで報道されている「JKビジネス」について知っていますか。(○は1つ)

JKビジネスを「知っている」と回答した割合は、中学生が16.2%、高校生が18.4%となっている。

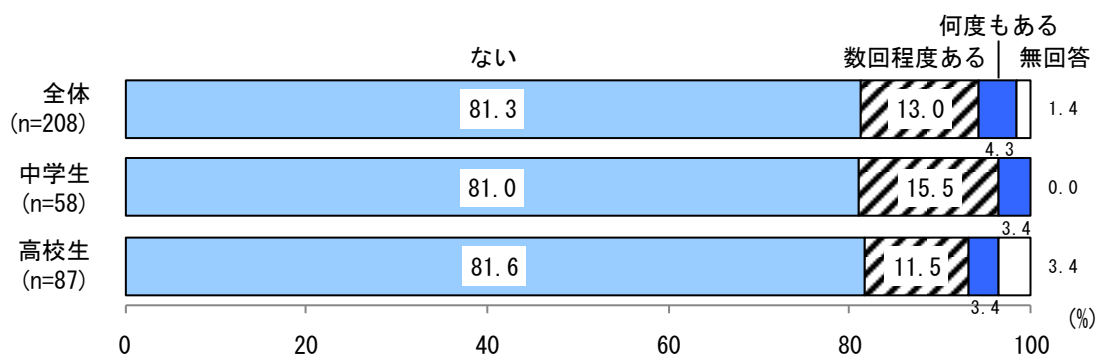


② 知り合いの女子中高生でJKビジネスをしている人の見聞状況

【問28で「知っている」と答えた方に】

問29 あなたの知り合いの女子中高生で、JKビジネスをしている人を見たり聞いたりしたことはありますか。(○は1つ)

JKビジネスをしている人を見たり聞いたりしたことがない割合は、中学生、高校生とも8割となっている。これに対し、数回または何度か見聞きしたことがあると回答した割合は中学生が18.9%、高校生が14.9%となっている。



6 学校以外の公共施設について

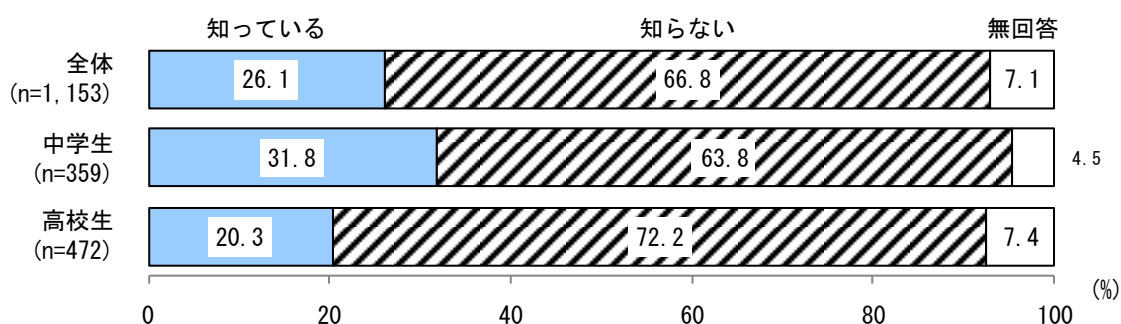
(1) 認知（利用）状況・利用意向

問30 学校以外の市内の公共施設についてお聞きします。以下の施設について、(1) 知っているか、(2) 利用したことがあるか、(3) 今後利用したいか、についてお答えください。(〇はそれぞれに1つずつ)

(ア) 認知状況

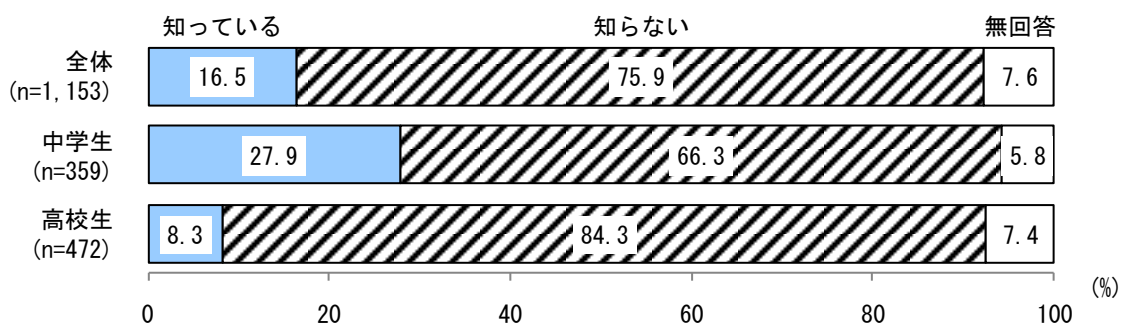
①上中条青少年センター

「知っている」割合は、中学生が31.8%、高校生が20.3%で中学生の認知率が高い。また、3施設の中で、中学生の認知率が最も高い施設である。



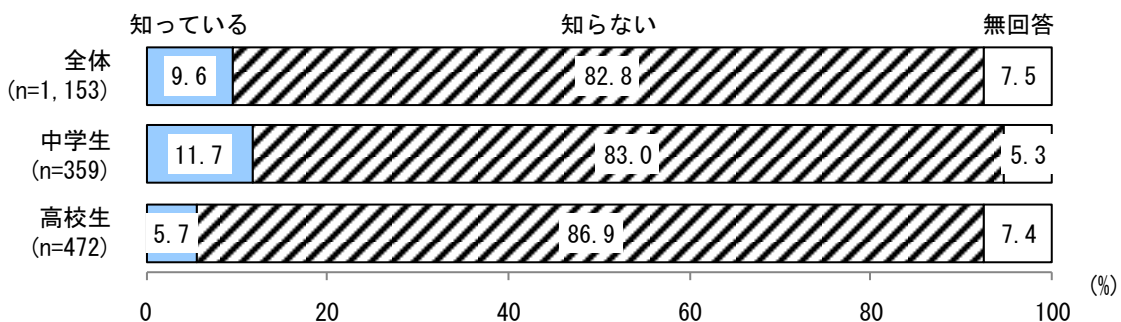
②多世代交流センター

「知っている」割合は、中学生が27.9%、高校生が8.3%で中学生の認知率が高い。



③ユースプラザ

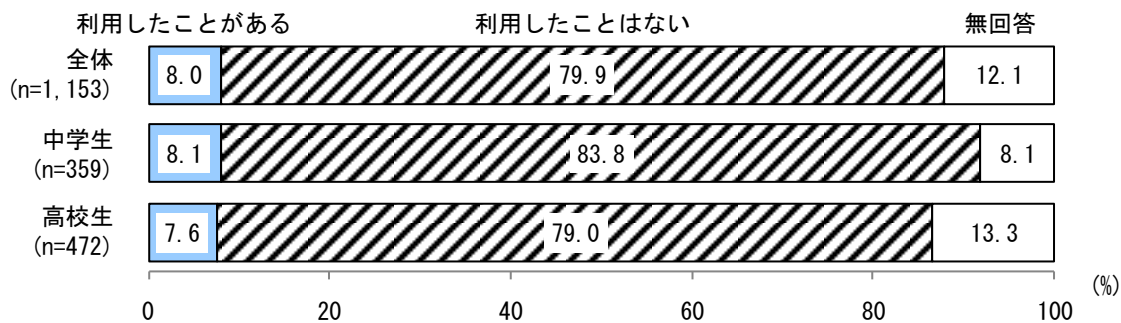
開設間もないため、3施設の中では認知率は最も低く、「知っている」割合は、中学生が11.7%、高校生が5.7%となっている。



(イ) 利用経験

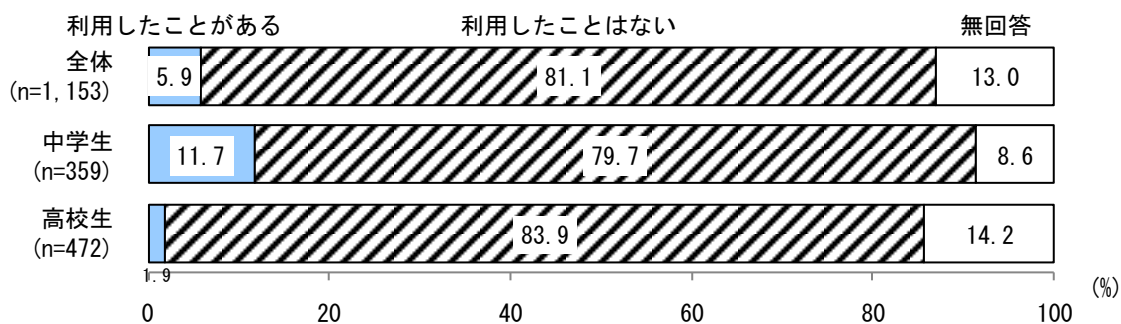
①上中条青少年センター

「利用したことがある」割合は、中学生が8.1%、高校生が7.6%で両者の差はほとんどなく、8割前後は「利用したことはない」と回答している。



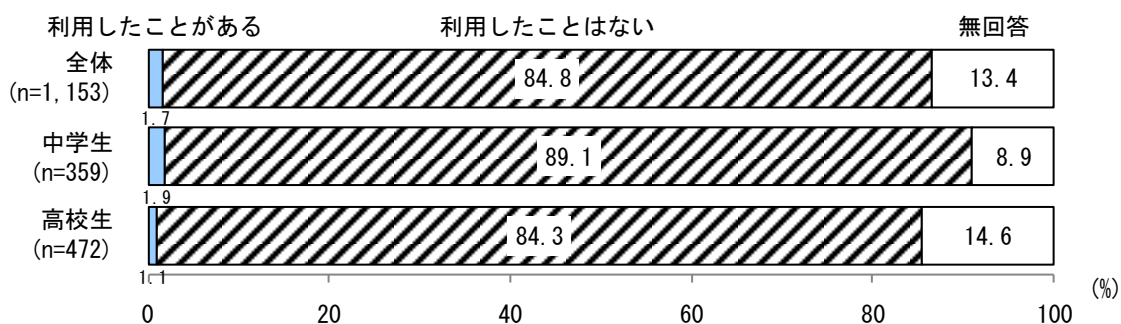
②多世代交流センター

「利用したことがある」割合は、中学生が11.7%、高校生が1.9%で中学生の割合が高い。



③ユースプラザ

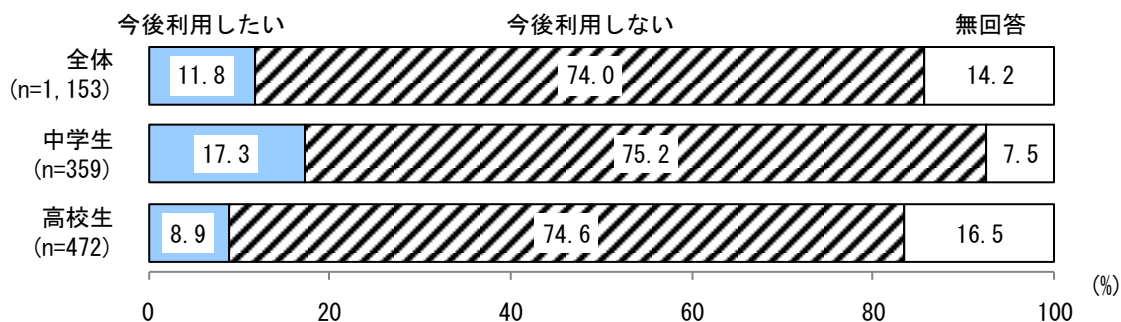
「利用したことがある」割合は、中学生が1.7%、高校生が1.1%と、いずれも利用者は少数である。



(ウ) 利用意向

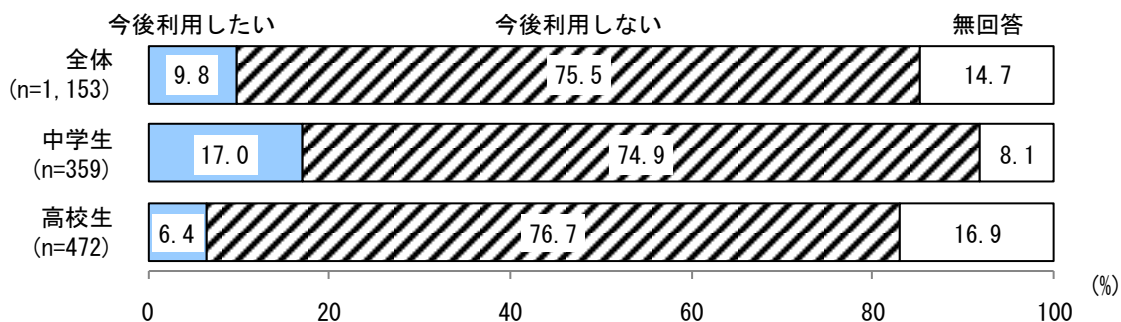
①上中条青少年センター

「今後利用したい」割合は、中学生が17.3%、高校生が8.9%となっている。



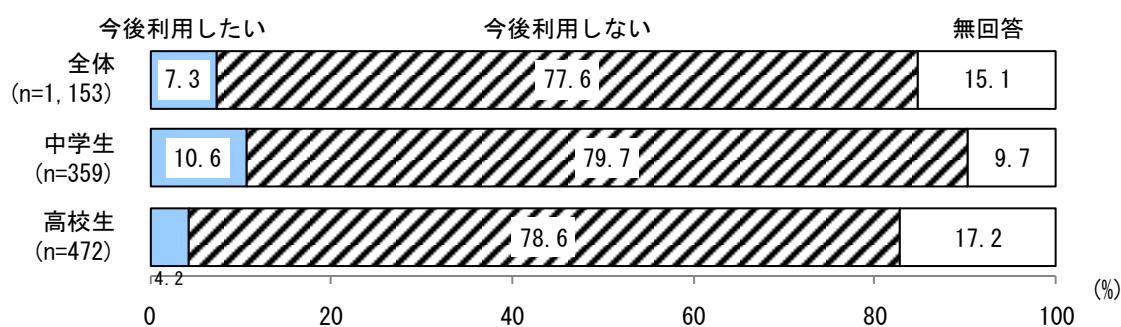
②多世代交流センター

「今後利用したい」割合は、中学生が17.0%、高校生が6.4%となっている。



③ユースプラザ

「今後利用したい」割合は、中学生が10.6%、高校生が4.2%となっている。

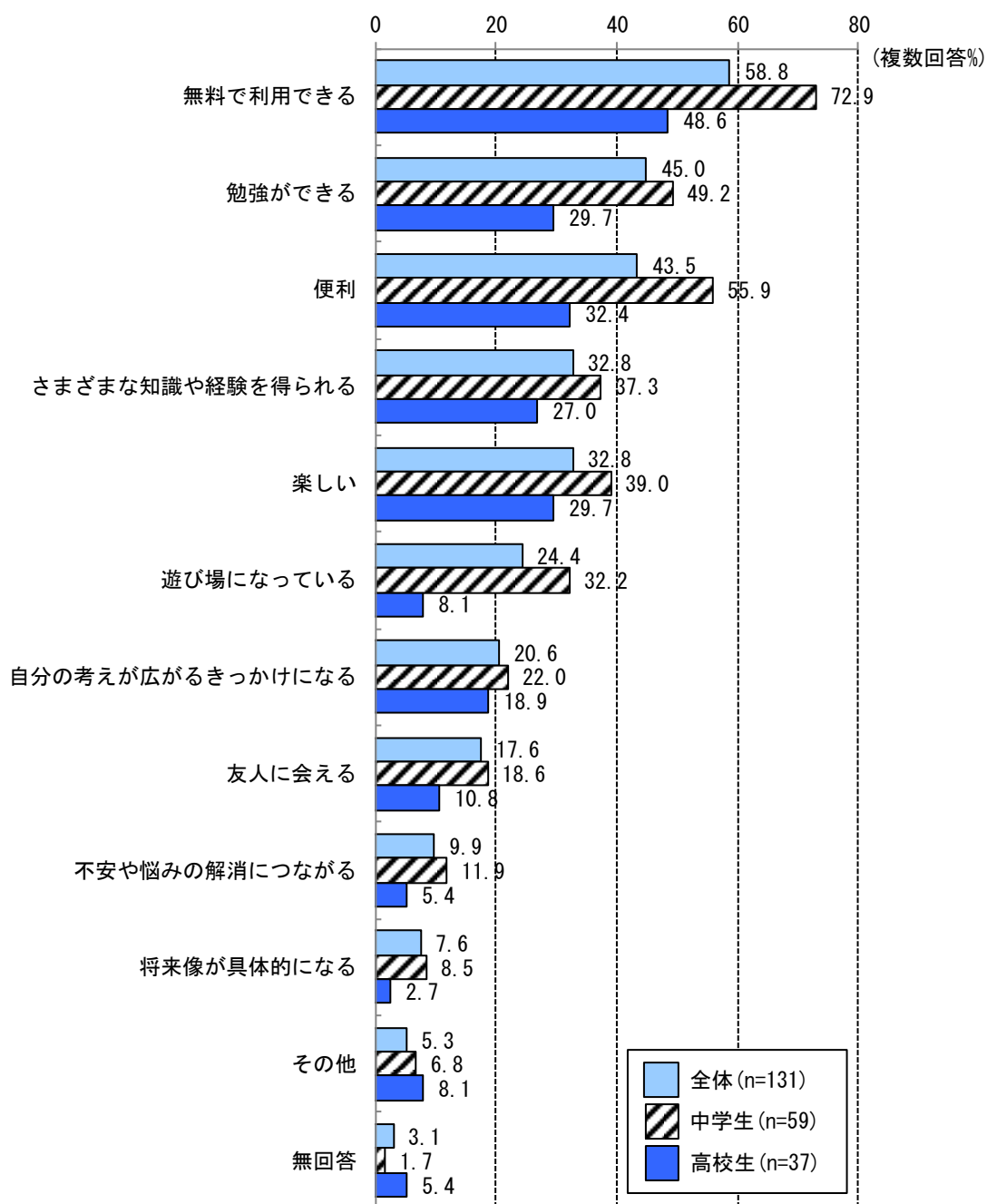


(2) 学校以外の市内の公共施設の利用の利点

【問30①～③の「(2) 利用したことがあるか」の質問で、いずれか1つでも「利用したことがある」と答えた方は、問31についてお答えください。】

問31 これらの施設を利用することについて、どのような点が良いと思いますか。
(〇はいくつでも)

中学生、高校生とも「無料で利用できる」(中学生72.9%、高校生48.6%)が良い点として最も多く、特に中学生の割合が高い。中学生では、これに次いで「便利」(55.9%)や「勉強ができる」(49.2%)、「楽しい」(39.0%)などが多くなっている。高校生でも、「無料」「便利」「楽しい」が良い点として多く挙げられている。

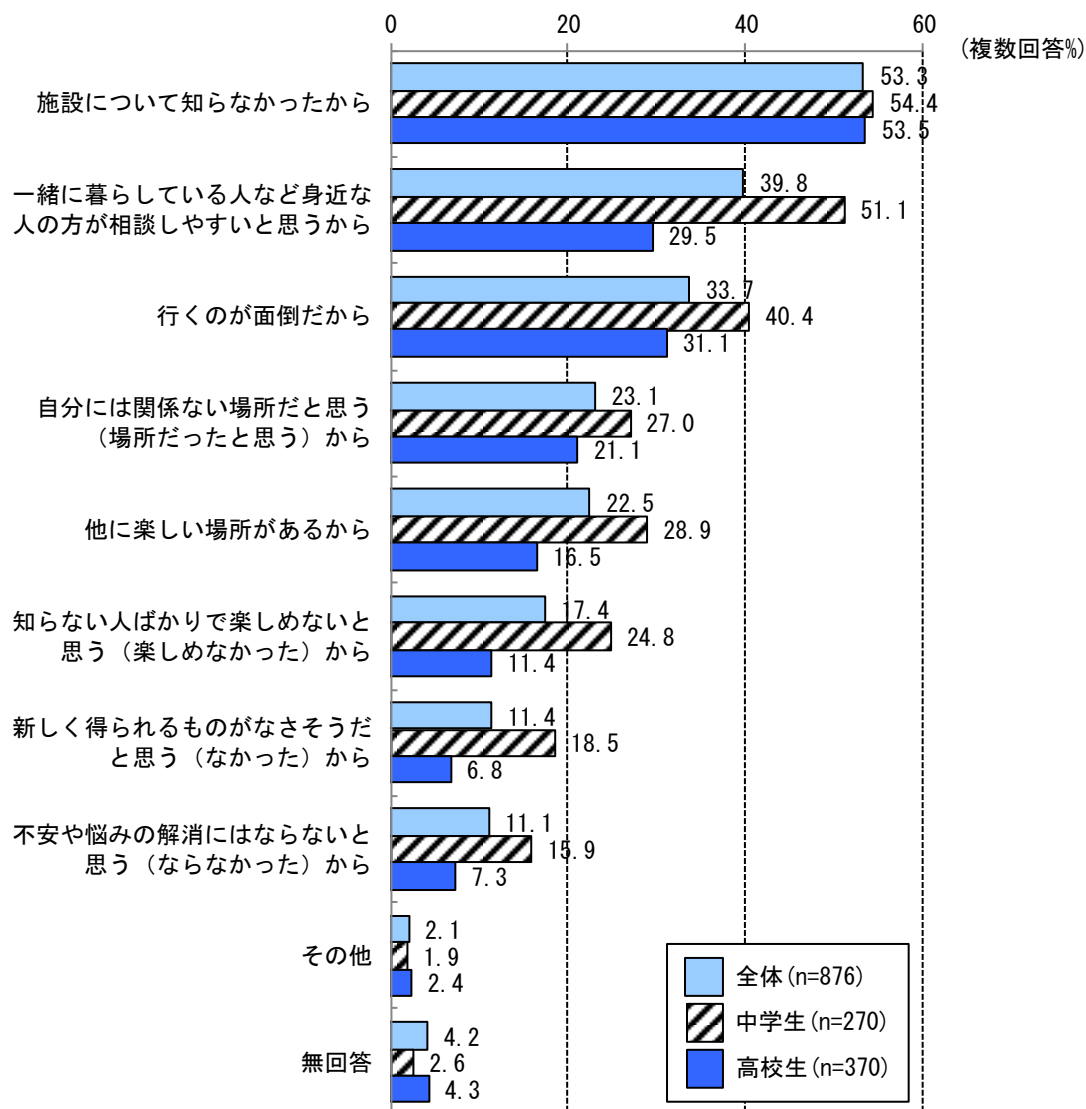


(3) 学校以外の市内の公共施設を利用しない理由

【問30①～③の「(2) 利用したことがあるか」の質問で、すべてに「利用したことがない」に○を付けた方は、問32についてお答えください。】

問32 これらの施設を利用しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

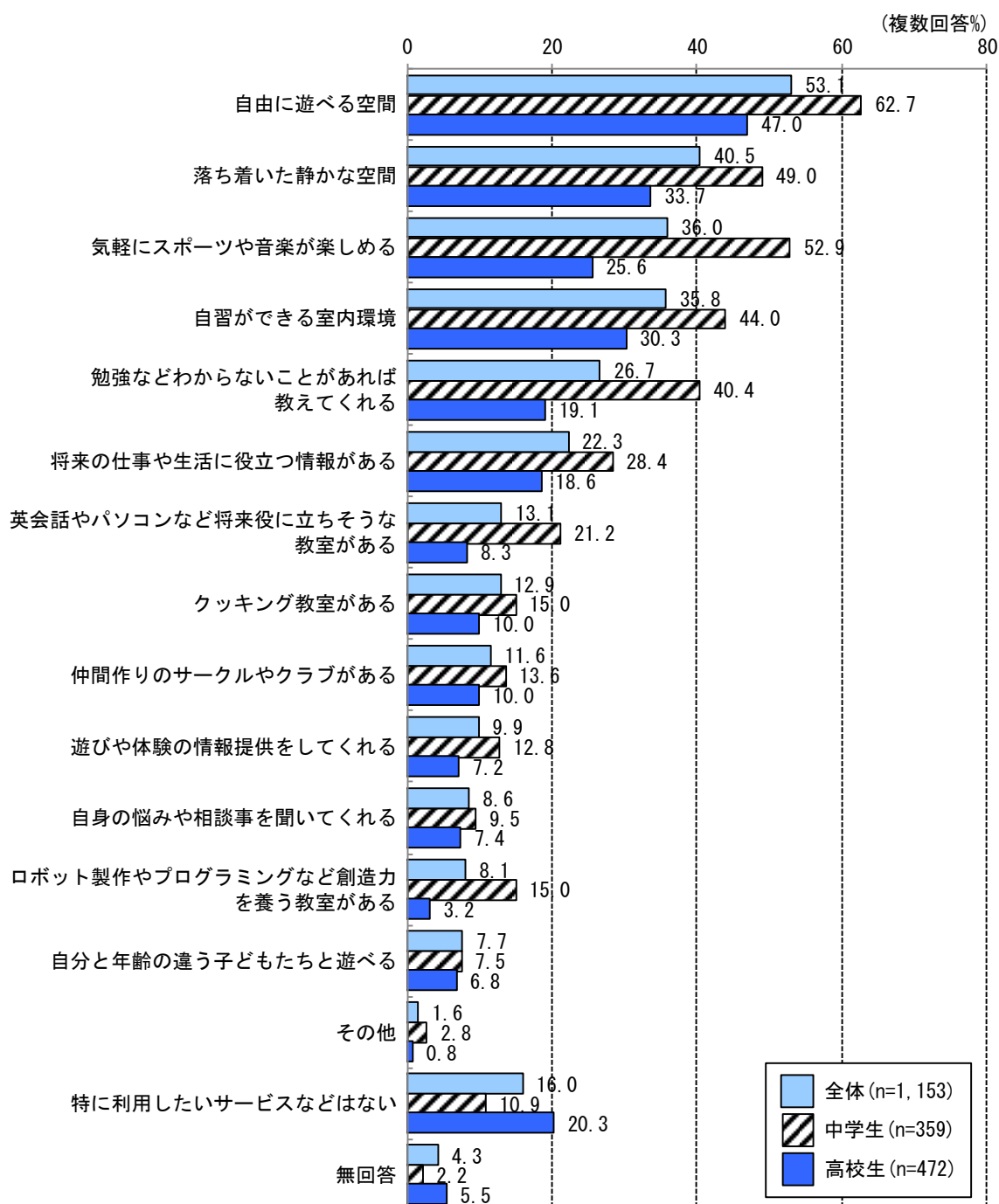
中学生、高校生とも「施設について知らなかったから」(中学生54.4%、高校生53.5%)が最も多く、次いで中学生では「一緒に暮らしている人や先生、友人など身近な人の方が相談しやすいと思うから」(51.1%)が、高校生では、これとともに「行くのが面倒だから」(31.1%)がそれぞれ多くなっている。



(4) 公共施設を利用したくなる企画やサービス

問33 公共施設にどのような企画やサービスがあれば利用したいですか。
(〇はいくつでも)

中学生、高校生とも「自由に遊べる空間」(中学生62.7%、高校生47.0%)が最も多く、次いで中学生では「気軽にスポーツや音楽が楽しめる」(52.9%)が、高校生では、「落ち着いた静かな空間」(33.7%)がそれぞれ多くなっている。高校生は「特に利用したいサービスなどはない」の割合が高く、利用したい企画やサービスへの回答割合は中学生に比べ全般に低くなっている。



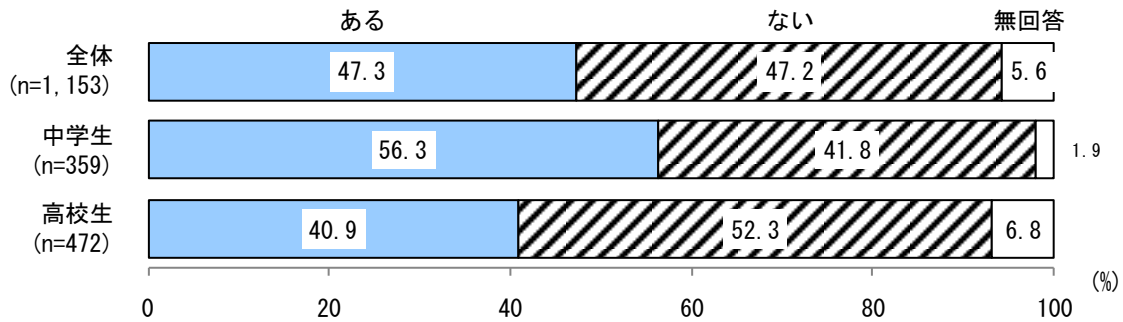
7 悩みや相談先について

(1) 悩みや困まりごとの状況

① 悩みや困っていることの有無

問34 あなたは、ふだん悩んだり、困ったりしていることはありますか。

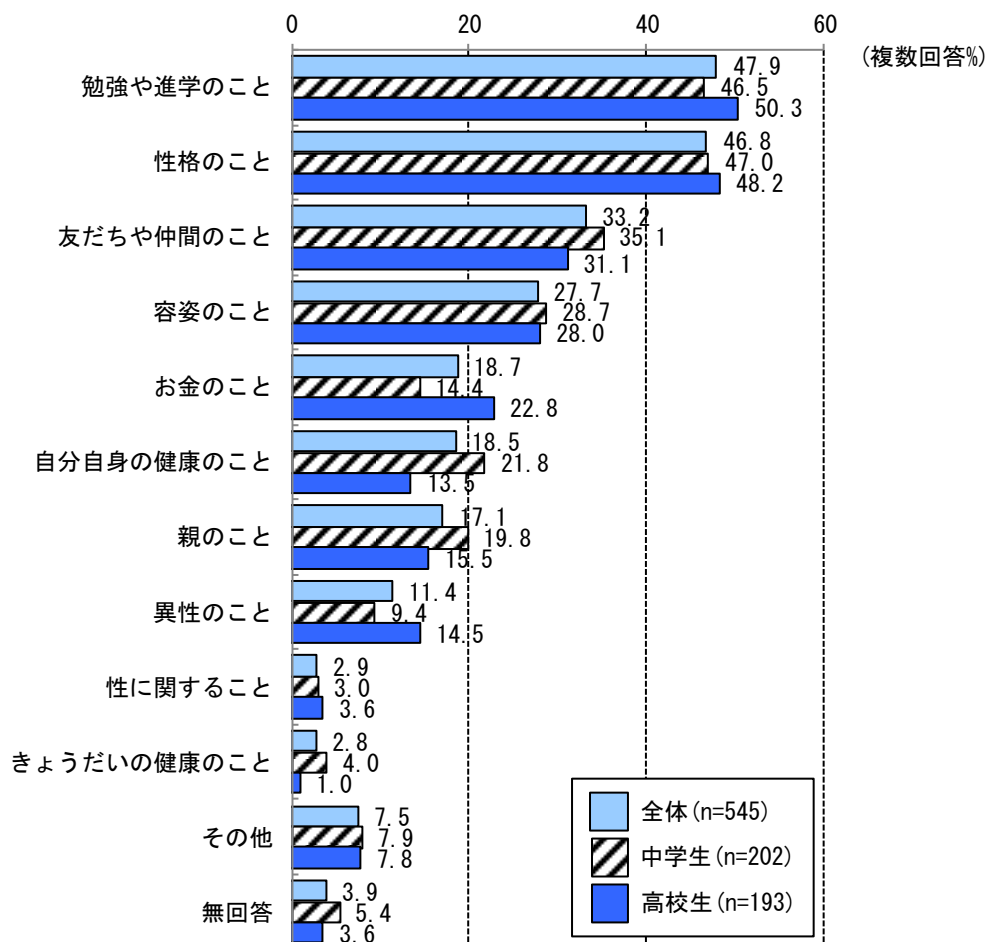
悩みや困っていることがある割合は、中学生が56.3%、高校生が40.9%で、中学生の割合が高い。



② 悩みや困っていることの内容

問35 どのようなことで悩んだり、困ったりしていますか。(〇はいくつでも)

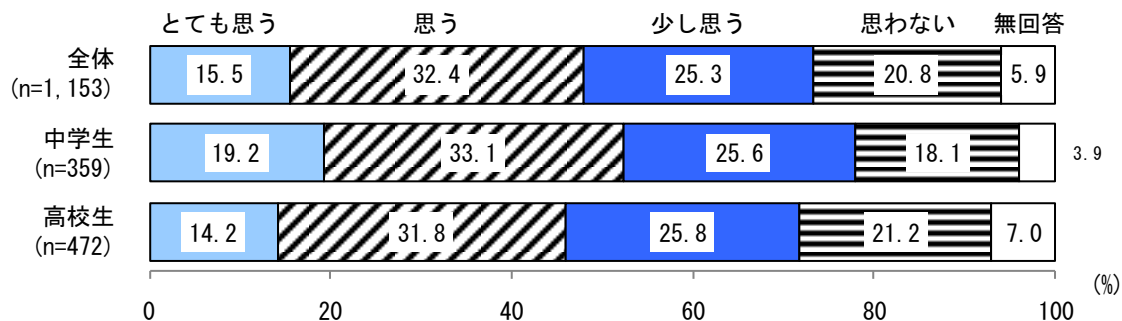
中学生、高校生とも「勉強や進学のこと」(中学生46.5%、高校生50.3%)と「性格のこと」(中学生47.0%、高校生48.2%)が多くなっている。これらに次いで「友だちや仲間のこと」(中学生35.1%、高校生31.1%)となっている。



(2) 悩みや困りごとの相談意向

問36 あなたは、ふだんの悩みごとを誰かに相談したいと思いますか。(○は1つ)

悩みごとを誰かに相談したいと考えている割合(「とても思う」と「思う」の合計)は、中学生が52.3%、高校生が46.0%で、中学生の割合が高い。

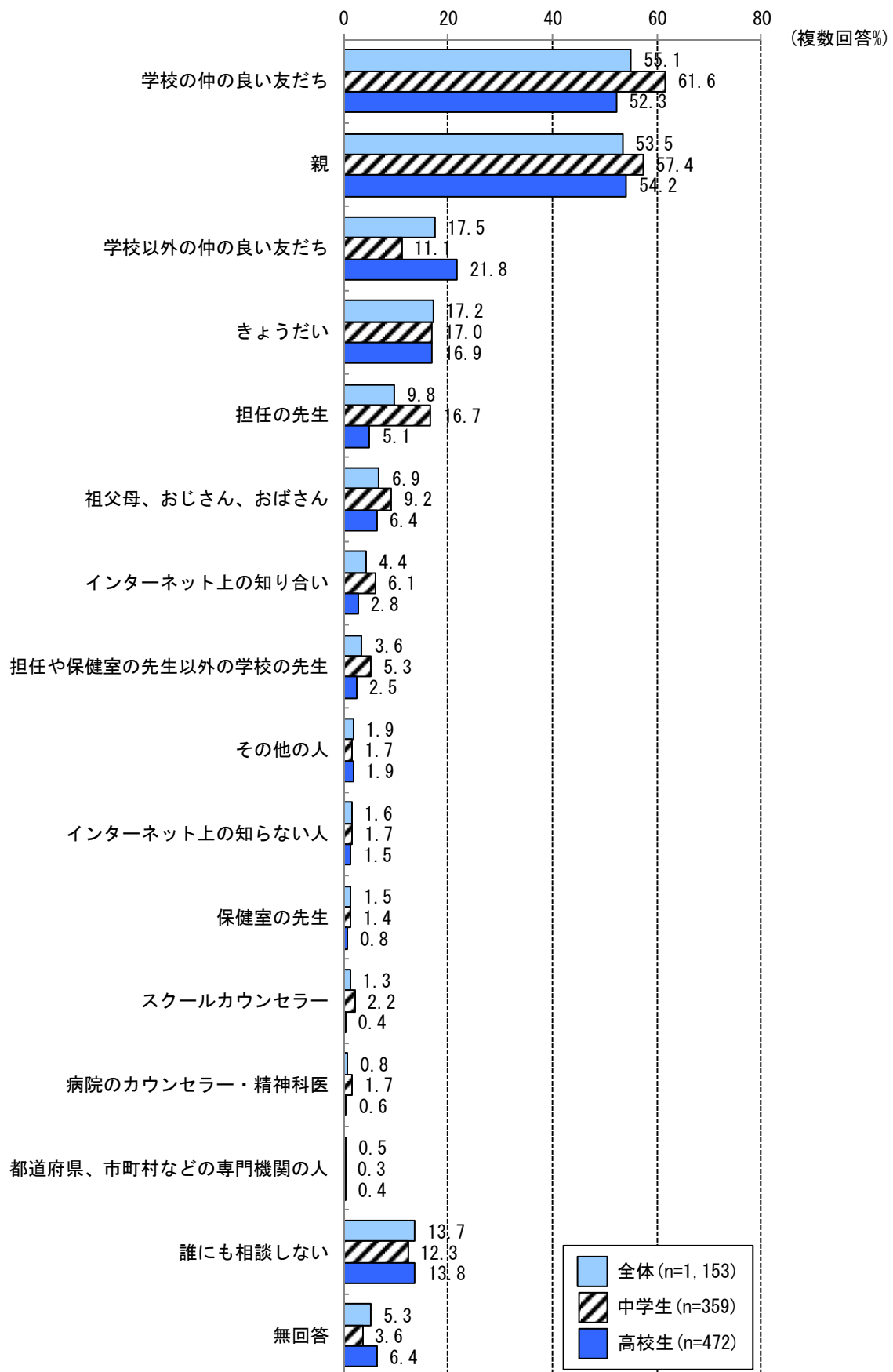


(3) 悩み事の相談先

問37 あなたは、ふだんの悩み事を誰に相談しますか。(○はいくつでも)

悩みや困っていることの相談先は、中学生、高校生とも「学校の仲の良い友だち」(中学生61.6%、高校生52.3%)と「親」(中学生57.4%、高校生54.2%)が多くなっている。

一方、「誰にも相談しない」は、中学生は12.3%、高校生は13.8%となっている。

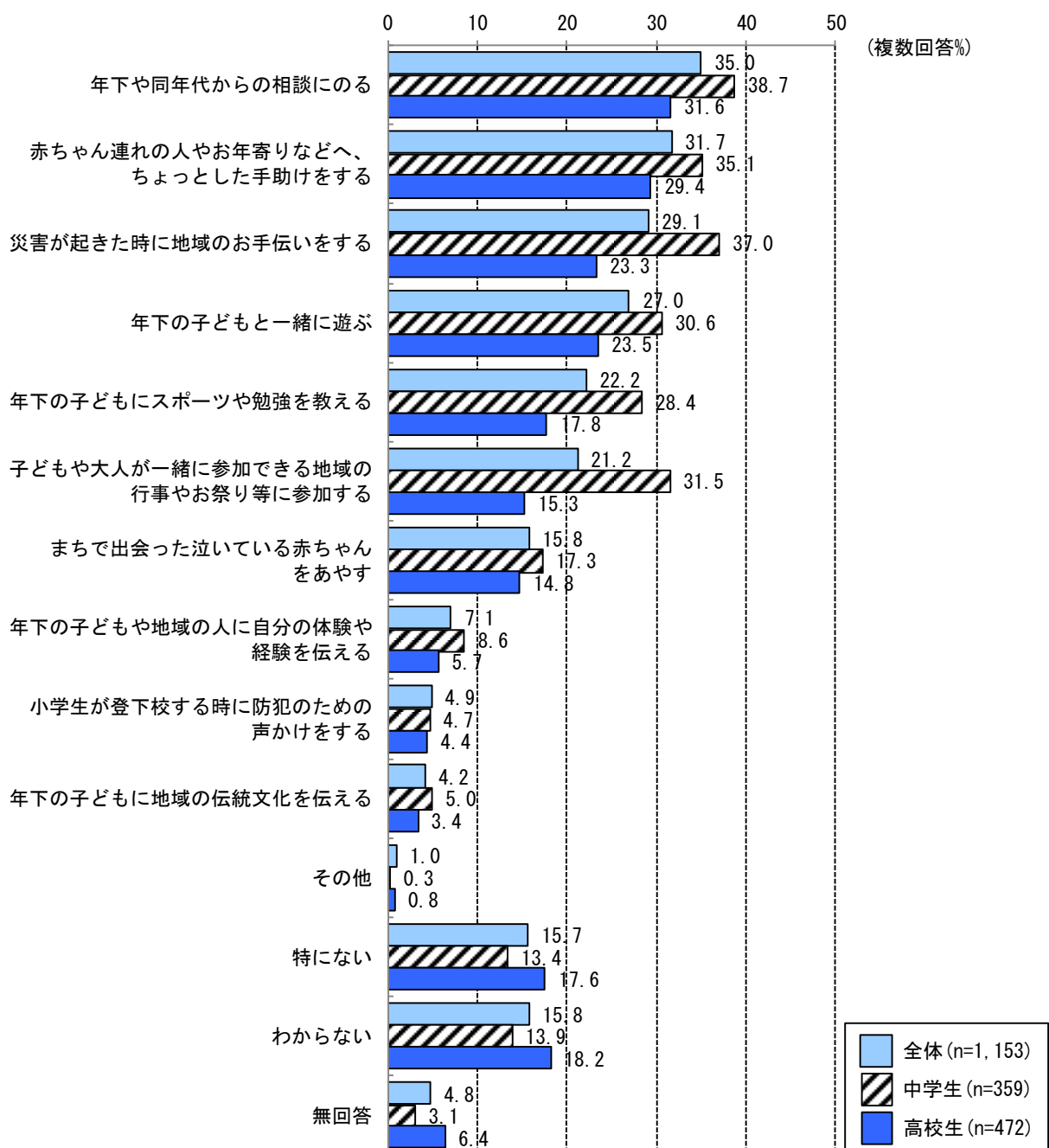


8 地域に役に立てる支援について

問38 住んでいる地域の中で、あなたが役に立ちたいと思う行動はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

中学生、高校生とも「年下や同年代からの相談にのる」(中学生38.7%、高校生31.6%)が最も多く、これに次いで、中学生は「災害が起きた時に地域のお手伝いをする」(37.0%)、「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」(35.1%)となっている。高校生でも「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」(29.4%)は2番目に多くなっている。

逆に「年下の子どもや地域の人に自分の体験や経験を伝える」や「小学生が登下校する時に防犯のための声かけをする」は、中学生、高校生とも挙げる人は少ない。



Ⅲ. 調査結果からみえてきた今後の課題

1 多様な人たちとのコミュニケーション機会の充実

調査結果では、ひとり親世帯の割合は、中学生に比べ高校生でやや高く、一緒に暮らしている人との会話の頻度は、ひとり親世帯で低い傾向がみられる。

会話の頻度が多いほど、生活に対する充実感が高い中高生が多いことから、子どもたちが気軽に集い、多様な人たちとのコミュニケーションを通じて、生き方が内向きにならないよう支援することが必要である。

2 参加しやすい活動の推進

調査結果では、子ども会活動や地域のまつり、体験学習活動等の地域活動について、どの活動も概ね半数もしくはそれ以上が体験しているものの、ひとり親家庭の子どもの参加割合が低い傾向にある。また、地域で役に立ちたい行動として、中学生、高校生とも「年下や同年代からの相談にのる」が最も多く、これに次いで、中学生は「災害が起きた時に地域のお手伝いをする」、高校生は「赤ちゃん連れの人やお年寄り、障害のある人などへ、ちょっとした手助けをする」が2番目に多くなっている。

このように地域に貢献したい、役立ちたいという意識を持つ中高生は少なくないと思われることから、様々な活動に関する情報提供をはじめ、参加・体験しやすい条件づくりが必要である。

3 夢や目標を持って意欲的に生きる子どもの育成に向けた支援

調査結果では、多くの中高生が、もっと自分に自信を持てたらよいと思い、また、今の自分に満足していないと回答している。

現在の生活に充実感が少ない中高生では、「友だちとよく話している」や「休み時間が楽しい」「部活が楽しい」の各割合が低い。逆に「我慢をすることが多い」「学校の勉強についていけない」「友だちというよりも一人でいることが多い」「いじめられたことがある」「1年間に30日以上、学校に通えなくなったことがある」の各割合が高くなっている。

子どもたちが夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいく力をはじめ、コミュニケーション能力や課題対応能力など、将来、自立した社会人・職業人として求められる能力の育成を支援していくことが必要である。

4 ヤングケアラーの実態の把握と支援の検討

調査結果では、一緒に暮らしている人の手伝いや世話をしている割合は、高校生に比べ中学生で高く、中高生とも母親の手伝いが9割を占める。その中で、トイレの手助けやおむつの交換、衣服の着脱、移動の手助け、服薬の手助けなどを行っている中高生は、全体の中では少数であるが、買い物や料理、食事の後片付け、洗濯、掃除などの家事も併せて行っている割合が高く、また「勉強をみること」や「遊び相手」「保育所・幼稚園・学童保育・習い事などの送り迎え」などの割合も高くなっている。さらに、このような手伝いや世話をしている時間は、家事に要する時間に比べ長い傾向がみられる。

一方で、「人を思いやる気持ちが強くなった」をはじめ、「人からほめられることが多

くなった」や「一緒に暮らしている人とのつながりが強くなった」「困ったことがあっても自分で乗り越える意志が強くなった」「近所の人と交流することが増えた」「困っている人に進んで手助けをするようになった」などの割合が全体平均を上回っており、プラスの効果ももたらしている。

今回の調査結果では、ヤングケアラーに該当する子どもたちが少数ではあるが存在することが示唆されていることから、そういった子どもたちの実態の把握に努め、望ましい支援策を検討することが必要である。

5 コミュニケーションツールとしてのSNSの適切な利用に向けた支援

調査結果では、自分専用の所有物のうち「携帯電話・スマートフォン」は高校生の95%が、中学生では79%が所持している。また、インターネットの利用目的として、SNSを挙げる割合は中学生に比べ高校生で高く、SNSを利用したコミュニケーションについては、中学生、高校生とも「情報発信・収集の手段として活用できる」が多い。一方、中学生は「自分の情報が悪用されそうで心配」も多くなっているのに対し、高校生では「場所を問わないので参加しやすい」や「ありのままに話ができるので便利」「深く関わらなくてすむので参加しやすい」などが多くなっている。さらに、SNSを通じて、何でも悩みを相談できる、困ったときは助けてくれる、他の人には言えない本音を話せる、強いつながりを感じると感じている割合は中学生に比べ高校生で高く、SNSに対する認識について中学生と高校生で温度差がみられる。

今やSNSは中高生のコミュニケーションツールとして欠かせないものとなっているが、自身の情報管理の徹底とともに、情報モラルや情報セキュリティに関する知識を深め、リスク教育としてインターネットリテラシーの向上に向けた支援を図ることが必要である。

6 楽しい居場所づくり充実

調査結果では、中高生とも、平日はパソコンやスマートフォンなどを使って過ごすことが9割前後を占めるとともに、中学生は部活動や勉強などをして過ごすことが多く、高校生は友人との交遊が主流となっている。休日の過ごし方も平日と概ね同傾向となっており、学校以外の時間の希望する過ごし方として、高校生は「何もしないでのんびりする」が多いのに対し、中学生は室内で過ごすことのほかスポーツや旅行などへの関心が高く、高校生に比べ活動的である。

また、学校以外の活動に参加したいと思うきっかけとしては「楽しそう」がポイントとなっている。本市には上中条青少年センターや多世代交流センター、ユースプラザなどの公共施設が整備されており、これら施設の利用のメリットとして“無料”や“便利”“楽しい”が挙げられている。

公共施設を利用しない最大理由として、「施設について知らなかったから」が最も多くなっているように、これら施設を楽しい居場所として子どもたちに活用されるよう機能の充実を図ることが必要である。

7 相談窓口の周知と利便性の向上

悩みや困りごとを抱えている割合は高校生（40.9%）に比べ中学生（56.3%）に多く、また誰かに相談したいと考えている割合も、高校生（46.0%）に比べ中学生（52.3%）で高くなっている。悩み事は、「勉強や進学のこと」「性格のこと」「友だちや仲間のこと」が上位で、ふだんの相談先は、中学生、高校生とも「学校の仲の良い友だち」と「親」が多くなっている。

一方、上中条青少年センターやユースプラザには相談窓口が設置されているが、これらの施設を利用しない最大理由として、「施設について知らなかったから」に次いで「一緒に暮らしている人や先生、友人など身近な人の方が相談しやすいと思うから」「行くのが面倒」など相談窓口の敷居の高さなどがネックとなっている。

気軽に利用できる相談窓口であることを周知するとともに、子ども・若者の声に耳を傾けながら利用しやすい窓口づくりに努めることが必要である。